

# 週刊「波動展望の部屋」 総合版

## 3月7日号

サイクル・パターン分析を中心としたテクニカル分析。今、考えるべき展開とリスク、チャートポイントを解説。

作成日時： 2011年3月4日 17:00

発行・販売： 北辰物産株式会社  
波動展望編集局・編集長 山本 毅  
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1-9-2  
Tel 03-3668-9141 <http://info.hd-station.net>

### 購読料

CX版	3ヶ月 12,000円	6ヶ月 20,000円
金融FX版	3ヶ月 12,000円	6ヶ月 20,000円
総合版：	3ヶ月 12,900円	6ヶ月 22,000円

このレポートは将来の見通しの適確性、あるいは収益性を保証するものではありません。各トレーダー及びレポートの読者は自己責任で取引してください。このレポートの筆者も発行人も金融、あるいは商品市場における各参加者の決断については一切責任を負いません。先物、あるいはオプション取引は高リスクを伴うと考えられています。

# 週刊「波動展望の部屋」 総合版 3月7日号 目次

ドル円 日足分析 煮え切らない状況のまま  
LIBOR市場動向 ユーロ・ドル金利差さらに拡大  
10年債利回りスプレッドの推移 独・米、米・日  
10年債利回りスプレッドの推移 豪・日、豪・米  
PIGSの10年債動向 イタリアで急落、要注意状況に  
NYダウ 日足分析 中々上昇チャンネルから転落しない、転落=奈落、回避=5月天井？  
日経平均 日足分析 チャンネルから落ちなかった、ならば  
サウジ、クウェート、ドバイの株暴落について

ゴールド 月足分析 8年周期大天井がこの先に待っている？  
ゴールド 日足分析 待ち構えるのは前年同期型、昨年9月型？  
2011年の金相場展開イメージ 3種  
東京金 日足分析 ダブルトップ抵抗線抜けば へ、失敗なら、  
東京白金 日足分析 2月高値抜けなければ底抜け、三尊の懸念あり  
NY原油 日足分析 単発ではなく2段、3段ロケットの可能性  
東京ガソリン 日足分析 三段抜きの陰転まで  
東京ゴム 日足分析 移動平均分析の原則通り  
タイ、マレーシア、上海のゴム相場動向  
LME銅 日足分析 RCIが左右対称的崩れかたで注目  
シカゴ大豆 日足分析 11月急落並み消化、次は11~2月上昇並み  
シカゴコーン 日足分析 昨年6 11月並み上昇波を継続中  
東京粗糖 日足分析 中段の緩い三角持合を維持

# ドル円 日足分析 煮え切らない状況のまま

USD/JPY(BID) 日足 期間09/09/16~11/03/04(383)高94.97(10/05/04)安80.22(10/11/01)

11/03/04 始82.36 高82.45 安82.28 終82.37

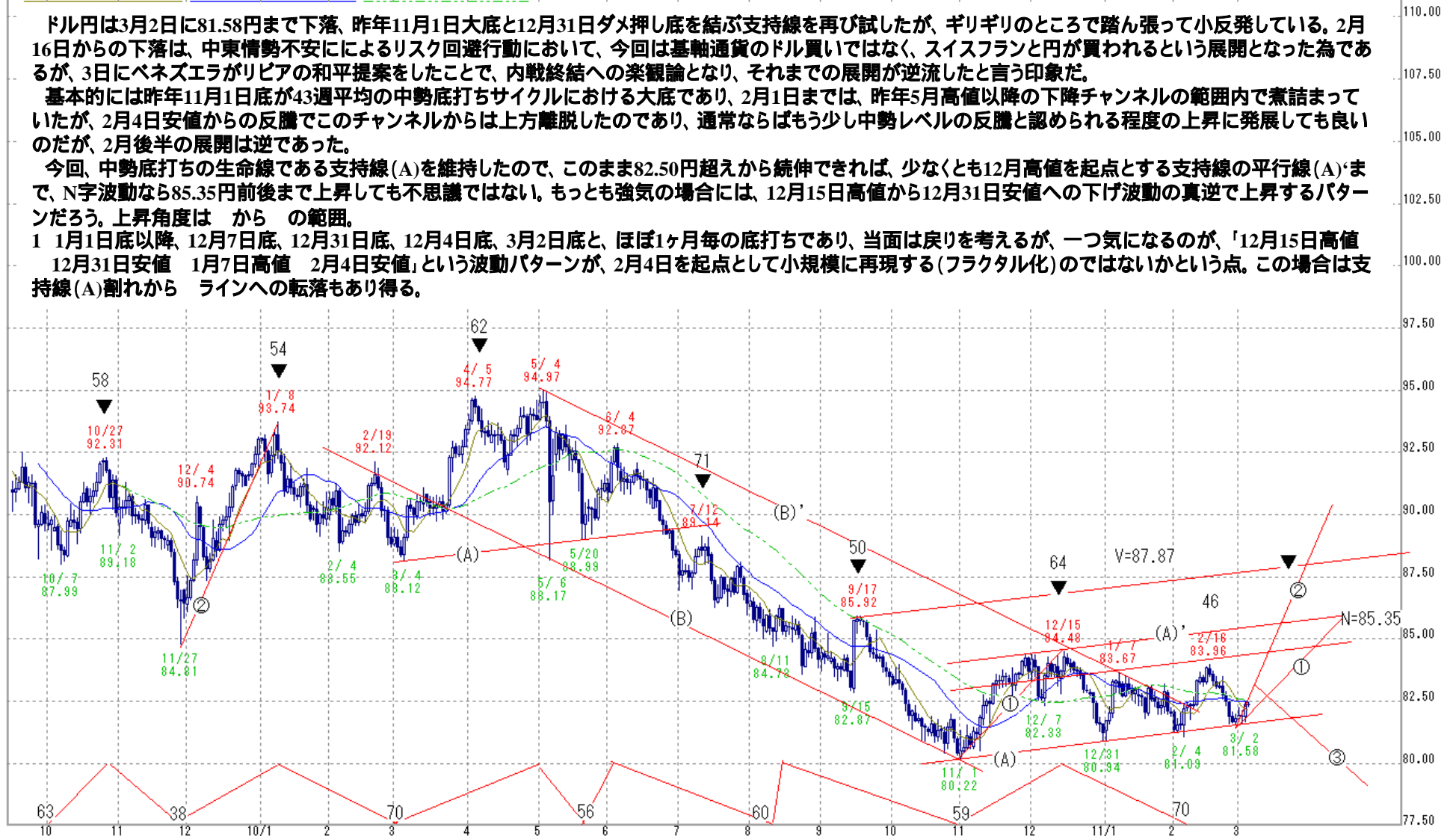
9日 終値単純 MA=82.14 26日 終値単純 MA=82.47 52日 終値単純 MA=82.52

ドル円は3月2日に81.58円まで下落、昨年11月1日大底と12月31日ダメ押し底を結ぶ支持線を再び試したが、ギリギリのところ踏ん張って小反発している。2月16日からの下落は、中東情勢不安によるリスク回避行動において、今回は基軸通貨のドル買いではなく、スイスフランと円が買われるという展開となった為であるが、3日にベネズエラがリビアの和平提案をしたことで、内戦終結への楽観論となり、それまでの展開が逆流したと言う印象だ。

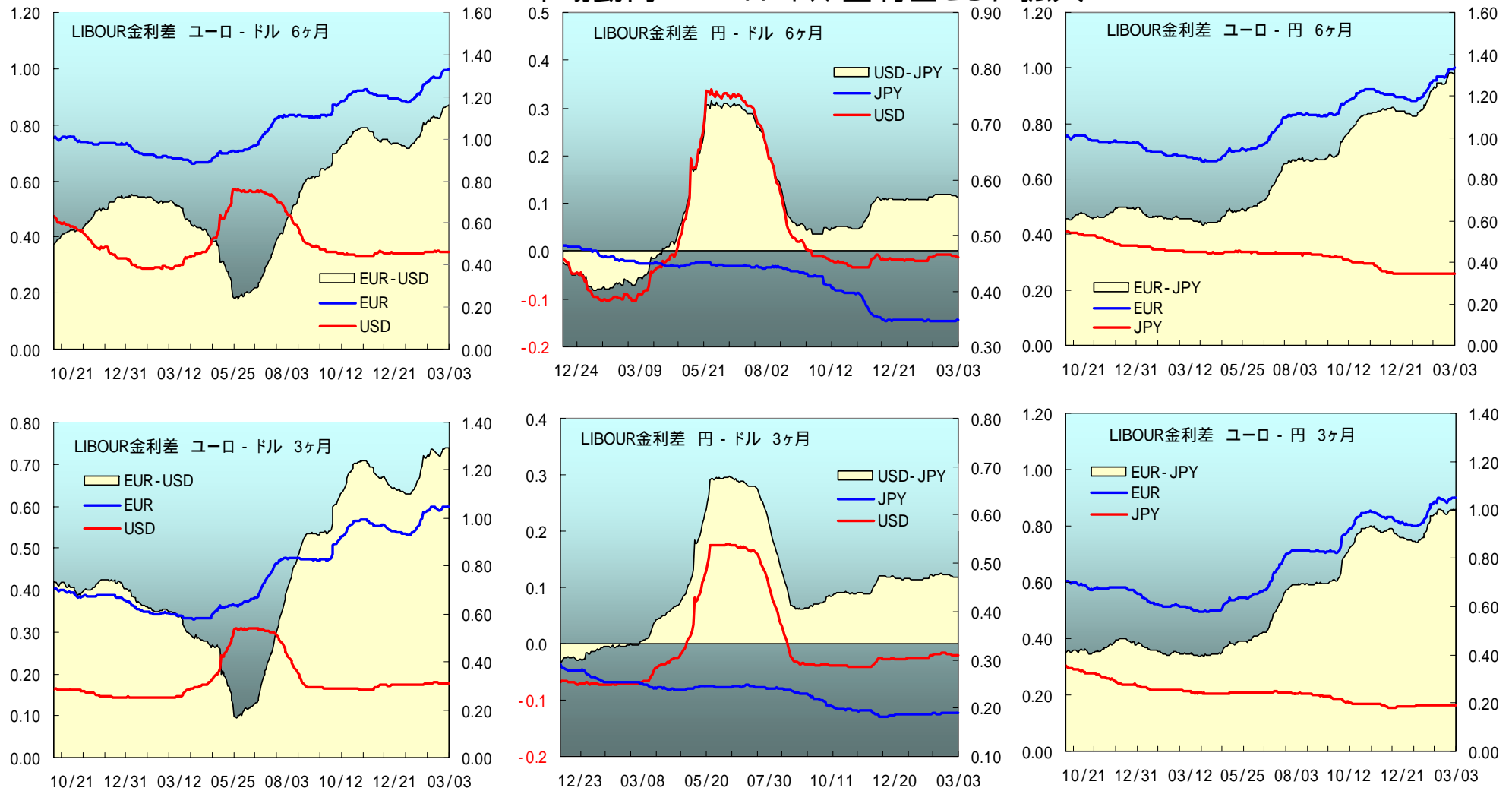
基本的には昨年11月1日底が43週平均の中勢底打ちサイクルにおける大底であり、2月1日までは、昨年5月高値以降の下降チャンネルの範囲内で煮詰まっていたが、2月4日安値からの反騰でこのチャンネルからは上方離脱したのであり、通常ならばもう少し中勢レベルの反騰と認められる程度の上昇に発展しても良いのだが、2月後半の展開は逆であった。

今回、中勢底打ちの生命線である支持線(A)を維持したので、このまま82.50円を超えれば、少なくとも12月高値を起点とする支持線の平行線(A)'まで、N字波動なら85.35円前後まで上昇しても不思議ではない。もっとも強気の場合には、12月15日高値から12月31日安値への下げ波動の真逆で上昇するパターンだろう。上昇角度は からの範囲。

1 1月1日底以降、12月7日底、12月31日底、12月4日底、3月2日底と、ほぼ1ヶ月毎の底打ちであり、当面は戻りを考えるが、一つ気になるのが、「12月15日高値 12月31日安値 1月7日高値 2月4日安値」という波動パターンが、2月4日を起点として小規模に再現する(フラクタル化)のではないかという点。この場合は支持線(A)割れから ラインへの転落もあり得る。

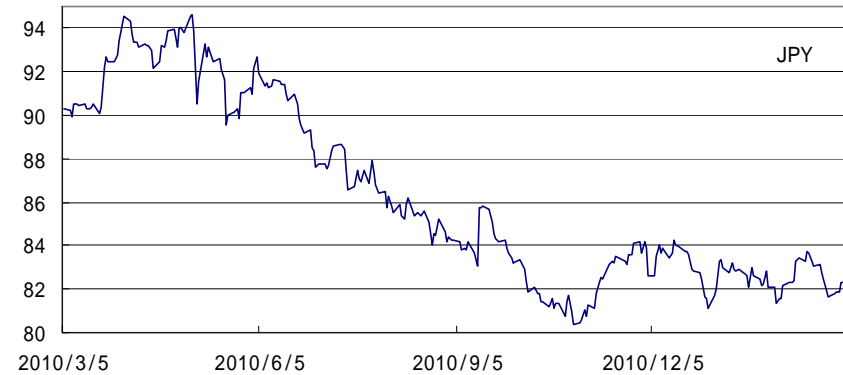
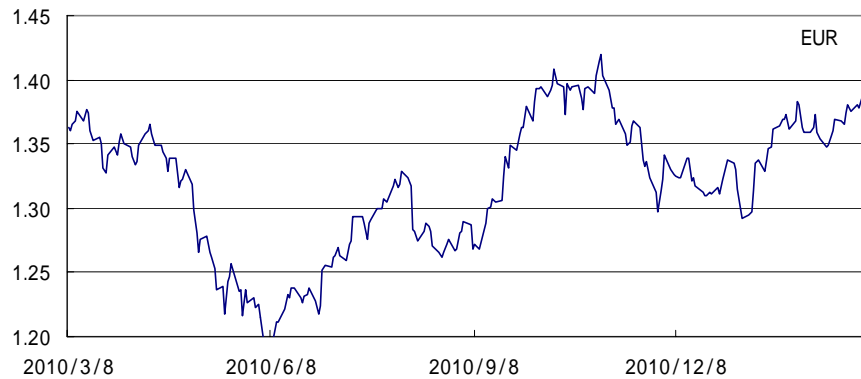
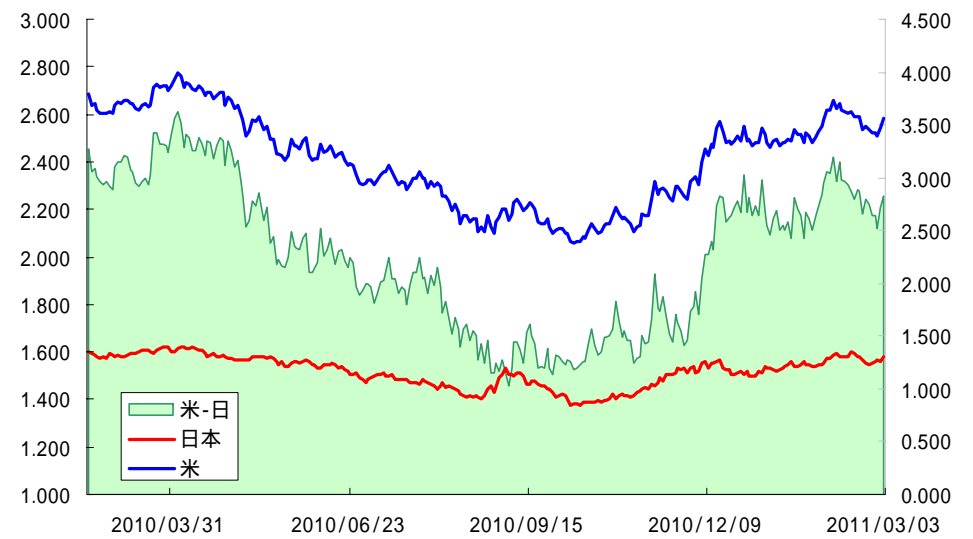
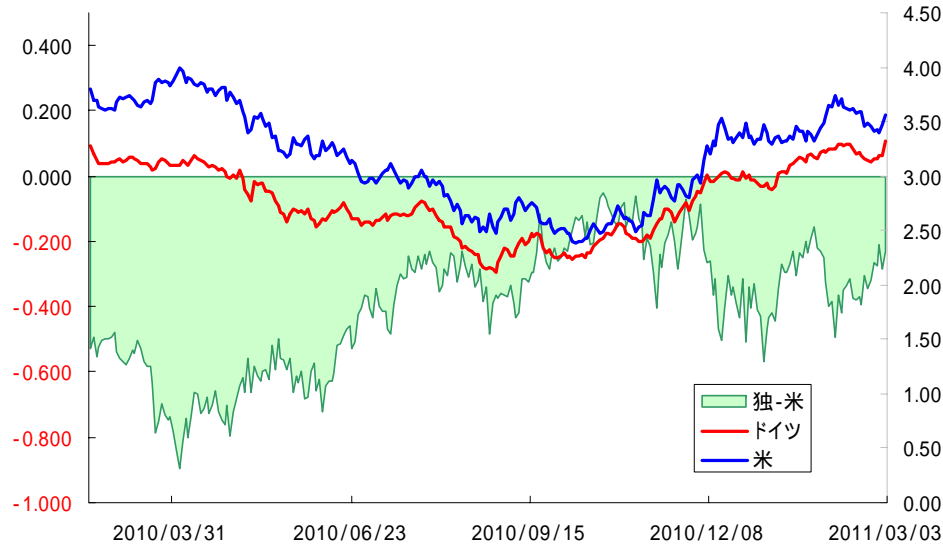


## LIBOR市場動向 ユーロ・ドル金利差さらに拡大



ECBは3日、政策金利を予想通り1%に据え置いたが、トシエECB総裁は理事会後の会見で、来月にも利上げに踏み切る可能性を示唆した。市場はいずれ利上げに動くと思われていたが、4月の利上げは想定しておらず、サプライズでもあった。利上げを見込んでLIBOR市場でのユーロ金利6ヶ月物は1.3338%へ上昇、ユーロとドルのスプレッドは0.8723まで拡大し、この間の最高値となった。去年の6月からのユーロ高ドル安は、5月末からの同スプレッド拡大開始と連動しており、1年半ばかりの再拡大とユーロ反騰も連動している。もちろん、金利以外の要因(中東情勢)でユーロが崩れる可能性は常にあるし、EU重債務国の債券下落が要注意段階に来ていることもあり、金利が高いからユーロ高と一概には決め付けられないが、少なくとも市場はリビア問題よりもこちらを優先している。(3/4 10:00記)

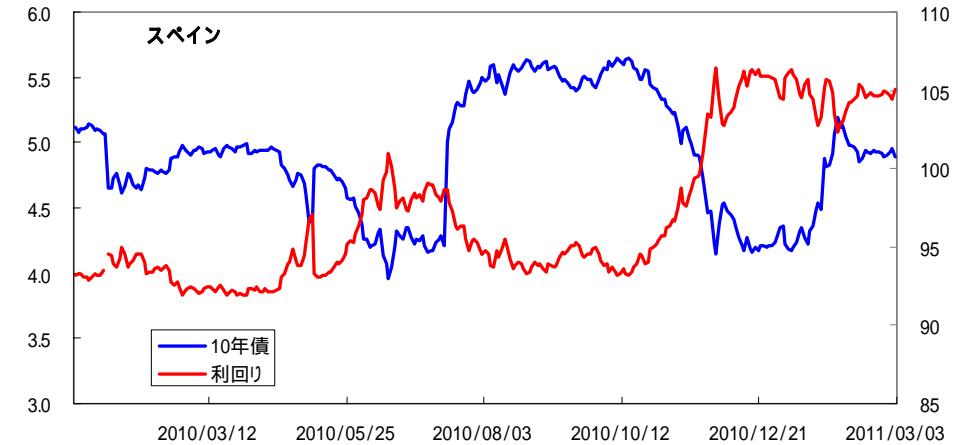
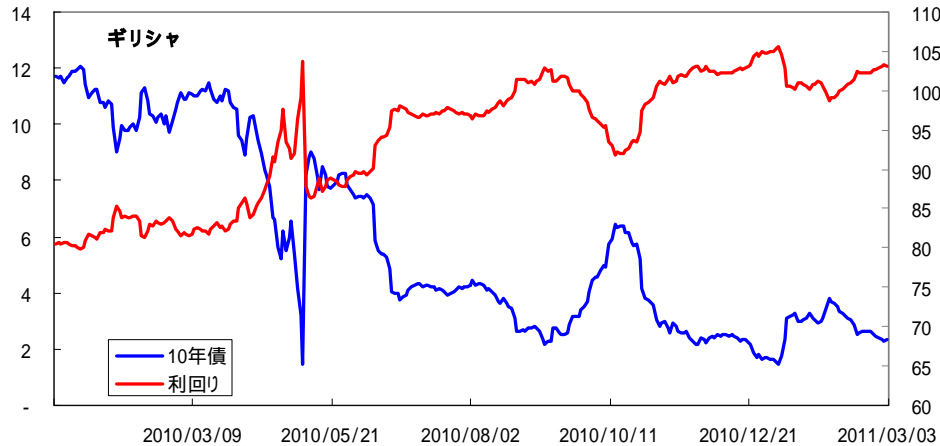
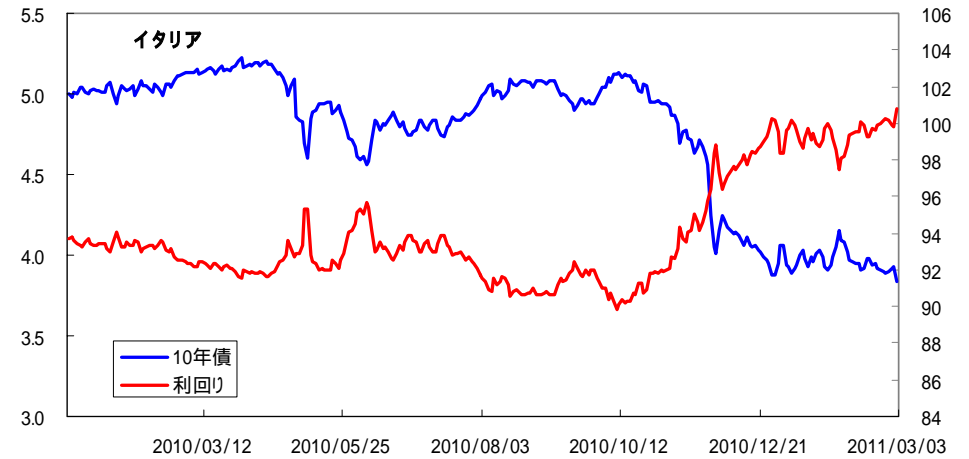
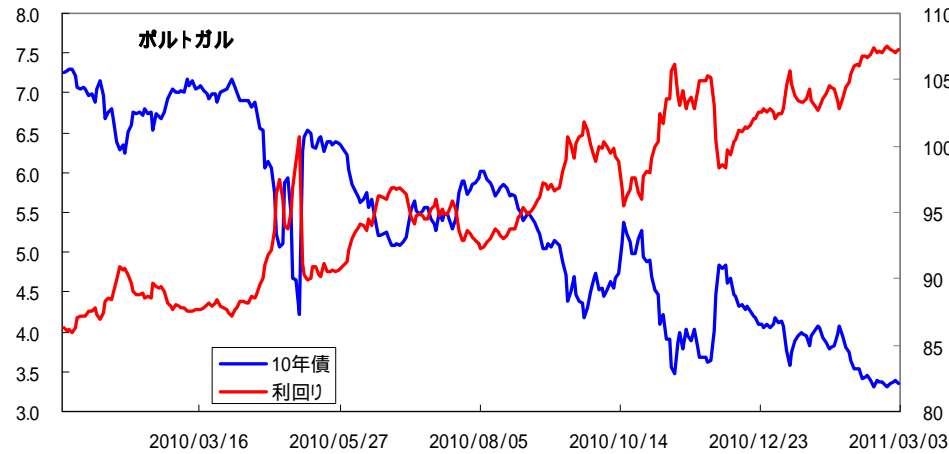
## 10年債利回りスプレッドの推移 独・米、米・日



今週はドイツも米国も日本の10年債利回りは上昇したが、ドイツと米国のスプレッドは3日段階で-0.231%まで縮小、2月8日に-0.491%まで拡大したところをボトムに縮小(上昇)傾向が続いている。短期金利市場でのECB早期利上げ観測によるユーロ金利上昇によるスプレッド拡大がユーロ買いドル売りにつながっているが、長期債利回りレベルでもドイツ債利回り上昇の加速度が増しており、ユーロ買いドル売り要因になっている。短期も長期も、金利面でのユーロ有利な状況が解消されないと、今のユーロチャカドル安基調が継続しやすいとは言えるのだろう。

日米のスプレッドは再び拡大。下げていた米10年債利回りが再上昇している中で、加速度は米が勝り、ドル円にとってはドル買い円売り要因になっている。ただ、2月初頭にかけてのスプレッド拡大局面ではドル円が余り反応しなかった事もあるので、過大な期待は持てない。(3/4 10:00記)

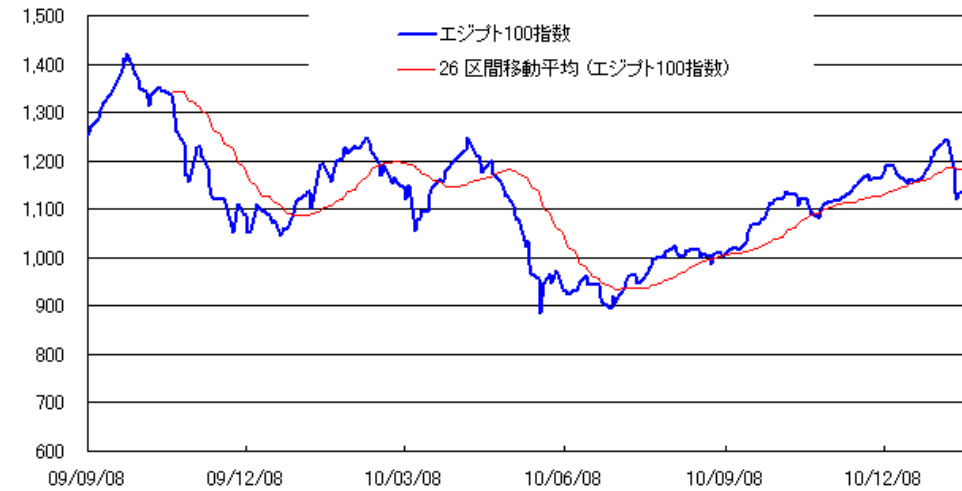
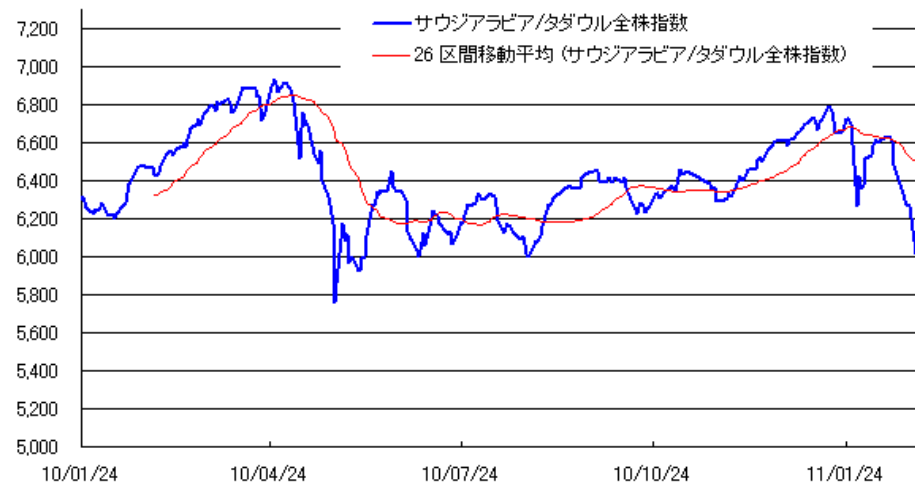
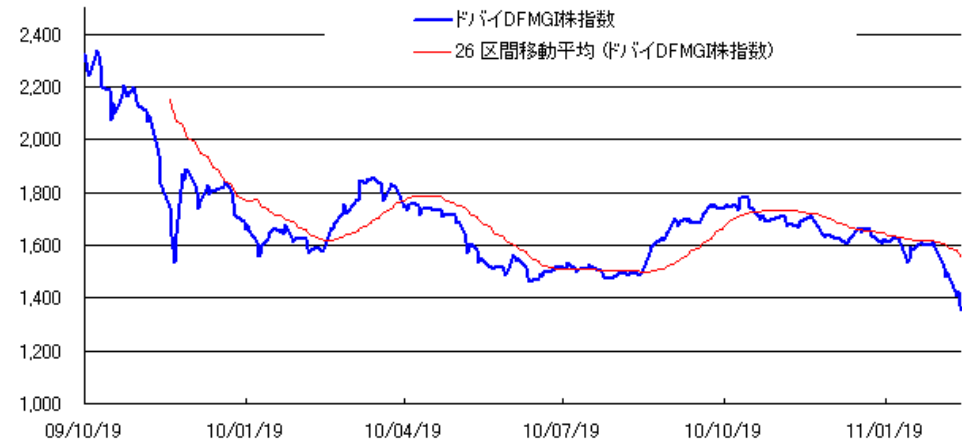
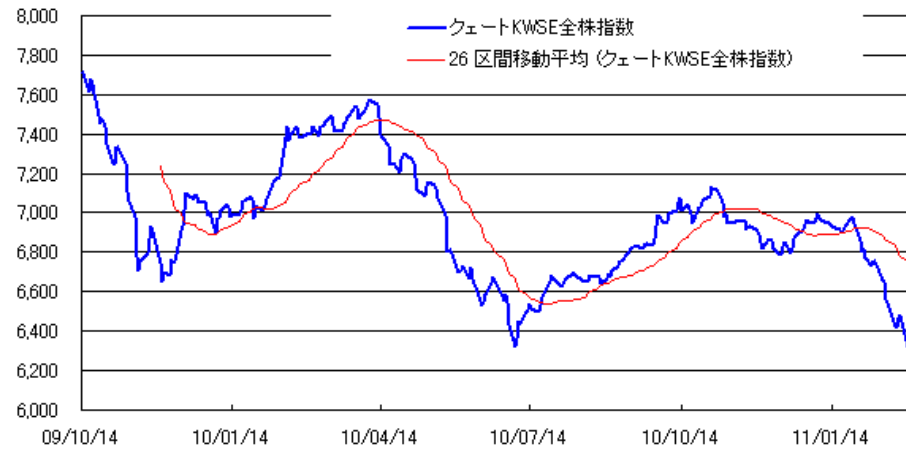
## PIGSの10年債動向 イタリアで急落、要注意状況に



チュニジアから始まった北アフリカの騒乱は、エジプトのムバラク独裁政権崩壊、リビアの内戦化と深刻化しているが、地中海を挟み、リビア等のオイルマネーもかなり入り込んでいるイタリアでは10年債が急落しており、重債務国としてのイタリアの負荷が拡大している。特に今週の下落は昨年末からの水準を底抜けしてきており警戒信号が点る。ギリシャも下落基調が続いている。ポルトガルも小康状態ではあるが、一月後半からの下落で一段安した状況のまま回復できていない。

ECBはインフレ抑制のために4月にも0.25%乗り上げを実施する可能性があるとして3日のECB理事会後のトリシェ総裁会見で示唆されたが、景気回復の道半ばでの利上げは、特に中東情勢不安と原油高騰という爆弾を抱える状況においては、投資マネーを逆流させ、特に弱い環であるPIGSを直撃しかねない。すなわち、欧州信用不安の再燃もありうる。(3/4 10:00記)

## サウジ、クェート、ドバイの株暴落について



サウジアラビアの株価が暴落している。3月11日と20日に大規模デモがネット上で呼びかけられているという。クェートもドバイも同様に暴落している。これを単に民主化の問題で捉えても相場にとってはしょうがないが、思い出すべきはドバイショックである。バブル絶頂の中で、バベルの塔の如きドバイタワーを建設し、この世の楽園とまで言われたドバイもバブル崩壊で投資マネーが逆流して大騒ぎになったことは記憶に新しい。これら産油国の株が暴落することは、世界中に投資資金をばら撒いてきたオイルマネーの懐が深刻に痛んでいることを示す。

チュニジアからエジプトに波及した民衆蜂起はリビアで内戦化しているが、イランにおいてもデモ隊が武力鎮圧されたり、バーレーンやイエメン、オマーンでも動きがある。リビアは元々が欧米帝国主義から革命で独立した国家であり、チュニジアやエジプトとは違い、本来はカダフィ大佐の革命政権であるから、そう簡単には倒れないだろうと思われる。問題はより長期化するだろう。また、生活水準そのものよりも、人間としての主体性なり、自由な存在性こそが、このような民衆蜂起の原動力でもある。それゆえ、圧制、独裁、アナクロな王国は、揃って崩壊する可能性がある。それは、チャウセスクのルーマニアが崩壊し、旧ソ連が崩壊したのと同じかそれ以上の歴史的な意味を持つかもしれないし、それを封じ込めるだけの力が、今の欧米帝国主義にはない、というのが問題を深刻化させてゆく(3/4 14:00記)

# NYダウ 日足分析 中々上昇チャンネルから転落しない、転落 = 奈落、回避 = 5月天井？

NYダウ工業30種 日足 期間09/08/03~11/03/03(400)高12391.29(11/02/18)安9116.52(09/08/17)

11/03/03 始12068.01 高12283.10 安12068.01 終12258.20

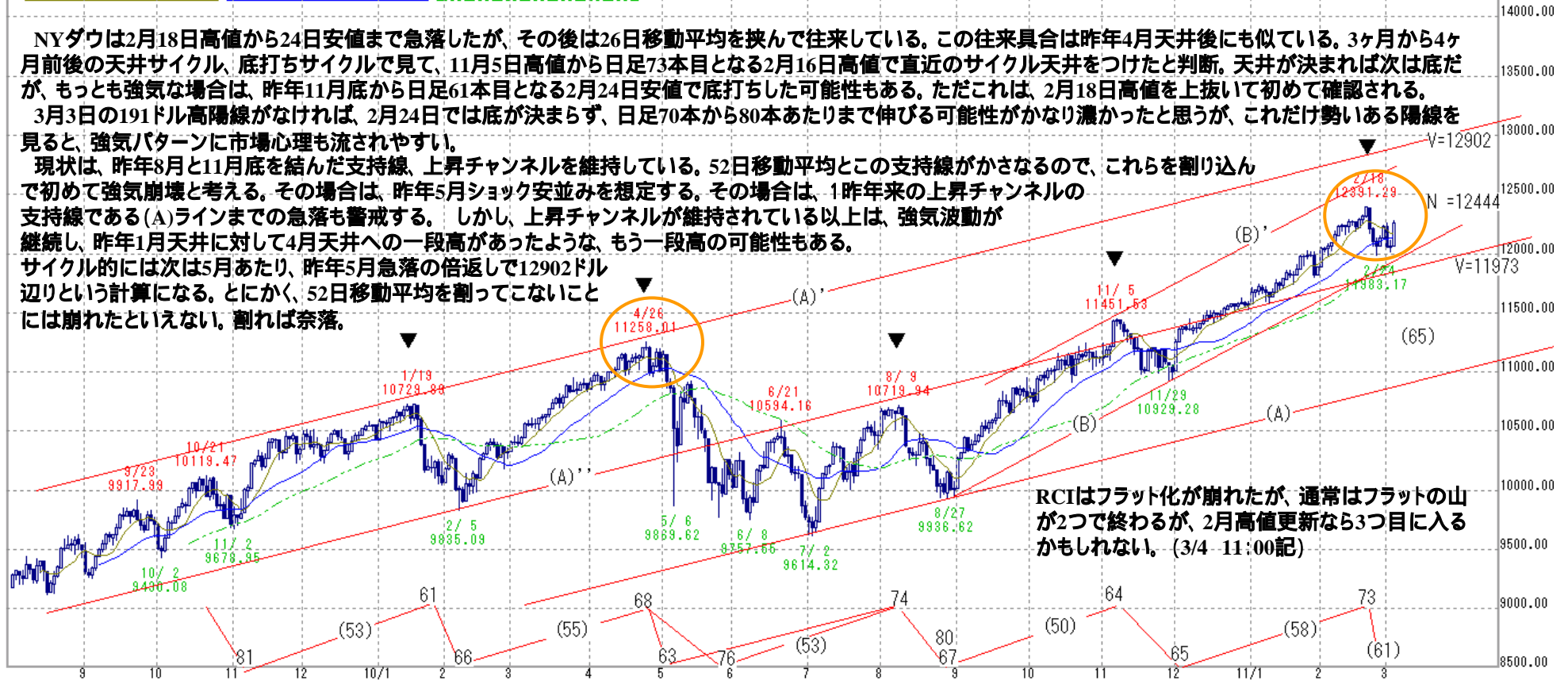
9日 終値単純 MA=12168.68 26日 終値単純 MA=12141.69 52日 終値単純 MA=11914.23

NYダウは2月18日高値から24日安値まで急落したが、その後は26日移動平均を挟んで往来している。この往来具合は昨年4月天井後にも似ている。3ヶ月から4ヶ月前後の天井サイクル、底打ちサイクルで見て、11月5日高値から日足73本目となる2月16日高値で直近のサイクル天井をつけたと判断。天井が決まれば次は底だが、もっとも強気な場合は、昨年11月底から日足61本目となる2月24日安値で底打ちした可能性もある。ただこれは、2月18日高値を上抜いて初めて確認される。

3月3日の191ドル高陽線がなければ、2月24日では底が決まらず、日足70本から80本あたりまで伸びる可能性がかなり濃かったと思うが、これだけ勢いある陽線を見ると、強気パターンに市場心理も流されやすい。

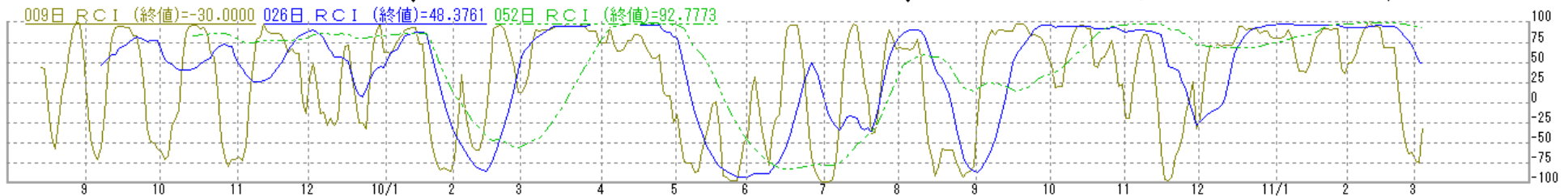
現状は、昨年8月と11月底を結んだ支持線、上昇チャンネルを維持している。52日移動平均とこの支持線がかさなるので、これらを割り込んで初めて強気崩壊と考える。その場合は、昨年5月ショック安並みを想定する。その場合は、1昨年来の上昇チャンネルの支持線である(A)ラインまでの急落も警戒する。しかし、上昇チャンネルが維持されている以上は、強気波動が継続し、昨年1月天井に対して4月天井への一段高があったような、もう一段高の可能性もある。

サイクル的には次は5月あたり、昨年5月急落の倍返しで12902ドル辺りという計算になる。とにかく、52日移動平均を割ってこないことには崩れたといえない。割れば奈落。



RCIはフラット化が崩れたが、通常はフラットの山が2つで終わるが、2月高値更新なら3つ目に入るかもしれない。(3/4 11:00記)

009日 RCI (終値)=-30.0000 026日 RCI (終値)=48.3781 052日 RCI (終値)=92.7773



# 日経平均 日足分析 チャンネルから落ちなかった、ならば

日経平均株価 日足 期間09/07/15~11/03/04(400)高11408.17(10/04/05)安8796.45(10/09/01)

11/03/04 始10730.91 高10788.43 安10664.37 終10693.66 出148327

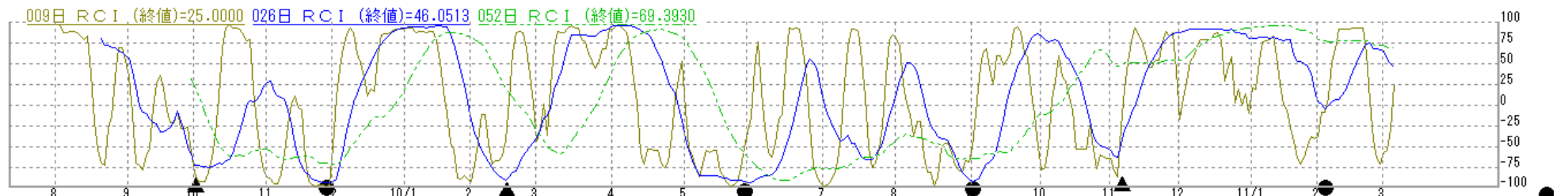
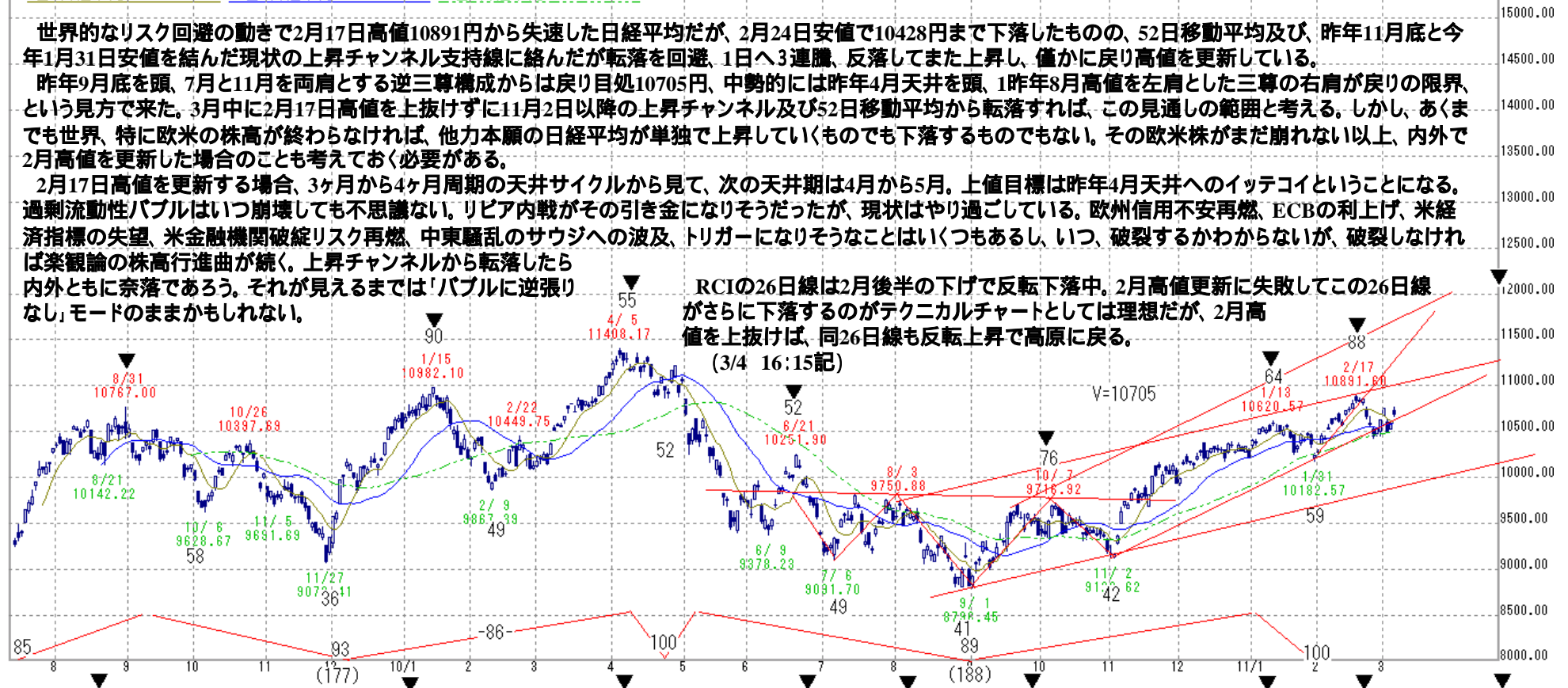
9日 終値単純\_MA=10597.05 26日 終値単純\_MA=10593.31 52日 終値単純\_MA=10498.85

世界的なリスク回避の動きで2月17日高値10891円から失速した日経平均だが、2月24日安値で10428円まで下落したものの、52日移動平均及び、昨年11月底と今年1月31日安値を結んだ現状の上昇チャンネル支持線に絡んだが転落を回避、1日へ3連騰、反落してまた上昇し、僅かに戻り高値を更新している。

昨年9月底を頭、7月と11月を両肩とする逆三尊構成からは戻り目処10705円、中勢的には昨年4月天井を頭、1昨年8月高値を左肩とした三尊の右肩が戻りの限界、という見方で来た。3月中に2月17日高値を上抜けずに11月2日以降の上昇チャンネル及び52日移動平均から転落すれば、この見通しの範囲と考える。しかし、あくまでも世界、特に欧米の株高が終わらなければ、他力本願の日経平均が単独で上昇していくものでも下落するものでもない。その欧米株がまだ崩れない以上、内外で2月高値を更新した場合のことも考えておく必要がある。

2月17日高値を更新する場合、3ヶ月から4ヶ月周期の天井サイクルから見て、次の天井期は4月から5月。上値目標は昨年4月天井へのイッテコイということになる。過剰流動性バブルはいつ崩壊しても不思議ない。リビア内戦がその引き金になりそうだったが、現状はやり過ごしている。欧州信用不安再燃、ECBの利上げ、米経済指標の失望、米金融機関破綻リスク再燃、中東騒乱のサウジへの波及、トリガーになりそうなのはいくつもあるし、いつ、破裂するかわからないが、破裂しなければ楽観論の株高進行曲が続く。上昇チャンネルから転落したら内外ともに奈落であろう。それが見えるまでは「バブルに逆張りなし」モードのままかもしれない。

RCIの26日線は2月後半の下げで反転下落中。2月高値更新に失敗してこの26日線がさらに下落するのがテクニカルチャートとしては理想だが、2月高値を上抜けば、同26日線も反転上昇で高原に戻る。  
(3/4 16:15記)



# ゴールド 月足分析 8年周期大天井がこの先に待っている？

Gold(SP)(BID) 月足 期間77/12/01~11/03/04(400)高1440.03(11/03/02)安157.75(77/12/12)

11/03 始1411.63 高1440.03 安1409.30 終1418.77

9月 終値単純 MA=1340.84 26月 終値単純 MA=1149.90 52月 終値単純 MA=970.12

昨年9月20日号において、ゴールドの長期見通しを立てたが、その時書いたのが下記。

長期の底打ちサイクルは8年周期であり、リーマンショックの2008年10月につけた、

中期的には33ヶ月前後の底打ちサイクルで推移しており、現在は24ヶ月目となる。

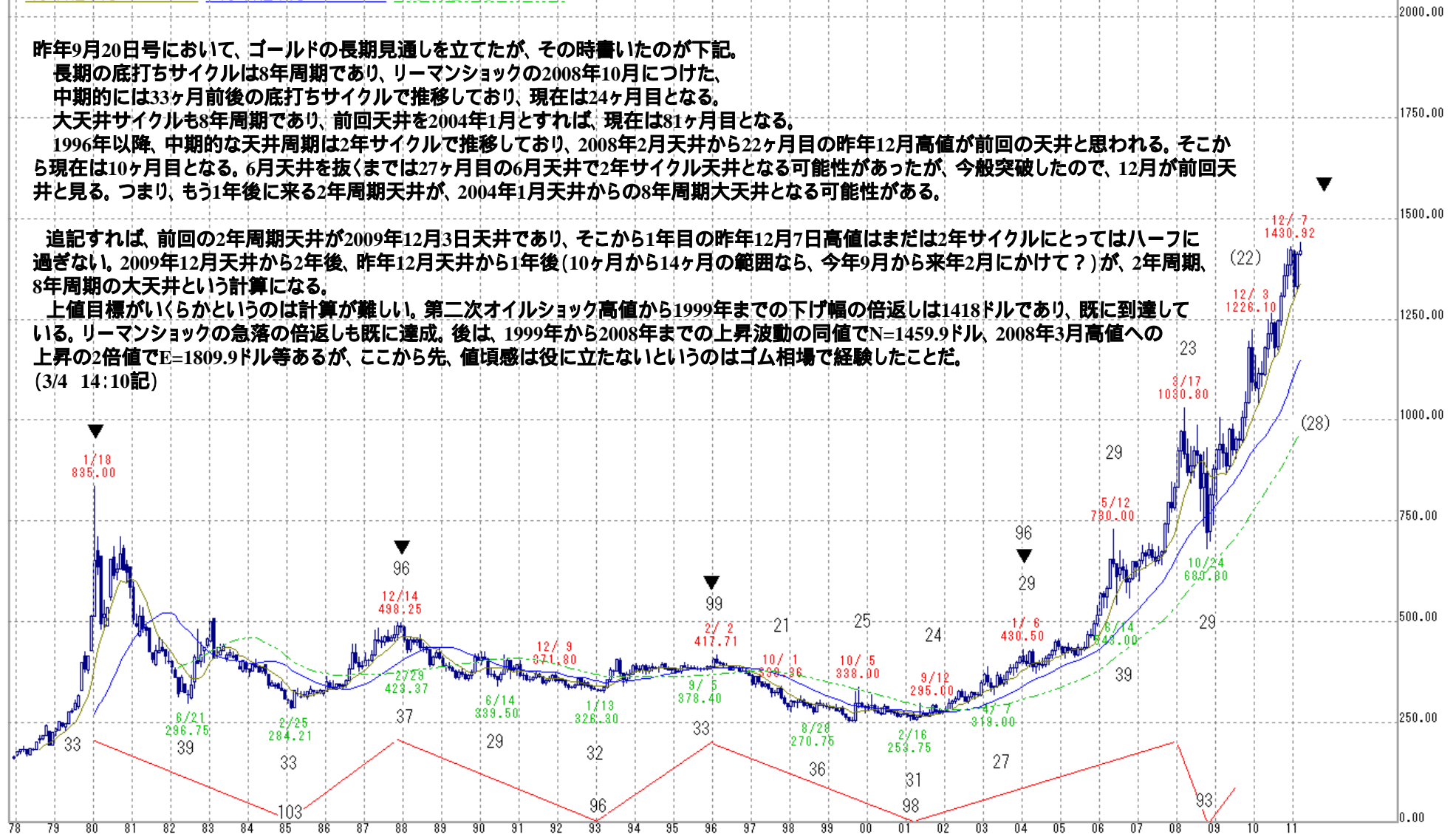
大天井サイクルも8年周期であり、前回天井を2004年1月とすれば、現在は81ヶ月目となる。

1996年以降、中期的な天井周期は2年サイクルで推移しており、2008年2月天井から22ヶ月目の昨年12月高値が前回の天井と思われる。そこから現在は10ヶ月目となる。6月天井を抜くまでは27ヶ月目の6月天井で2年サイクル天井となる可能性があったが、今般突破したので、12月が前回天井と見る。つまり、もう1年後に来る2年周期天井が、2004年1月天井からの8年周期大天井となる可能性がある。

追記すれば、前回の2年周期天井が2009年12月3日天井であり、そこから1年目の昨年12月7日高値はまだ2年サイクルにとってはハーフに過ぎない。2009年12月天井から2年後、昨年12月天井から1年後(10ヶ月から14ヶ月の範囲なら、今年9月から来年2月にかけて?)が、2年周期、8年周期の大天井という計算になる。

上値目標がいくらかというのは計算が難しい。第二次オイルショック高値から1999年までの下げ幅の倍返しは1418ドルであり、既に到達している。リーマンショックの急落の倍返しも既に達成。後は、1999年から2008年までの上昇波動の同値でN=1459.9ドル、2008年3月高値への上昇の2倍値でE=1809.9ドル等があるが、ここから先、値頃感には役に立たないというのはゴム相場で経験したことだ。

(3/4 14:10記)



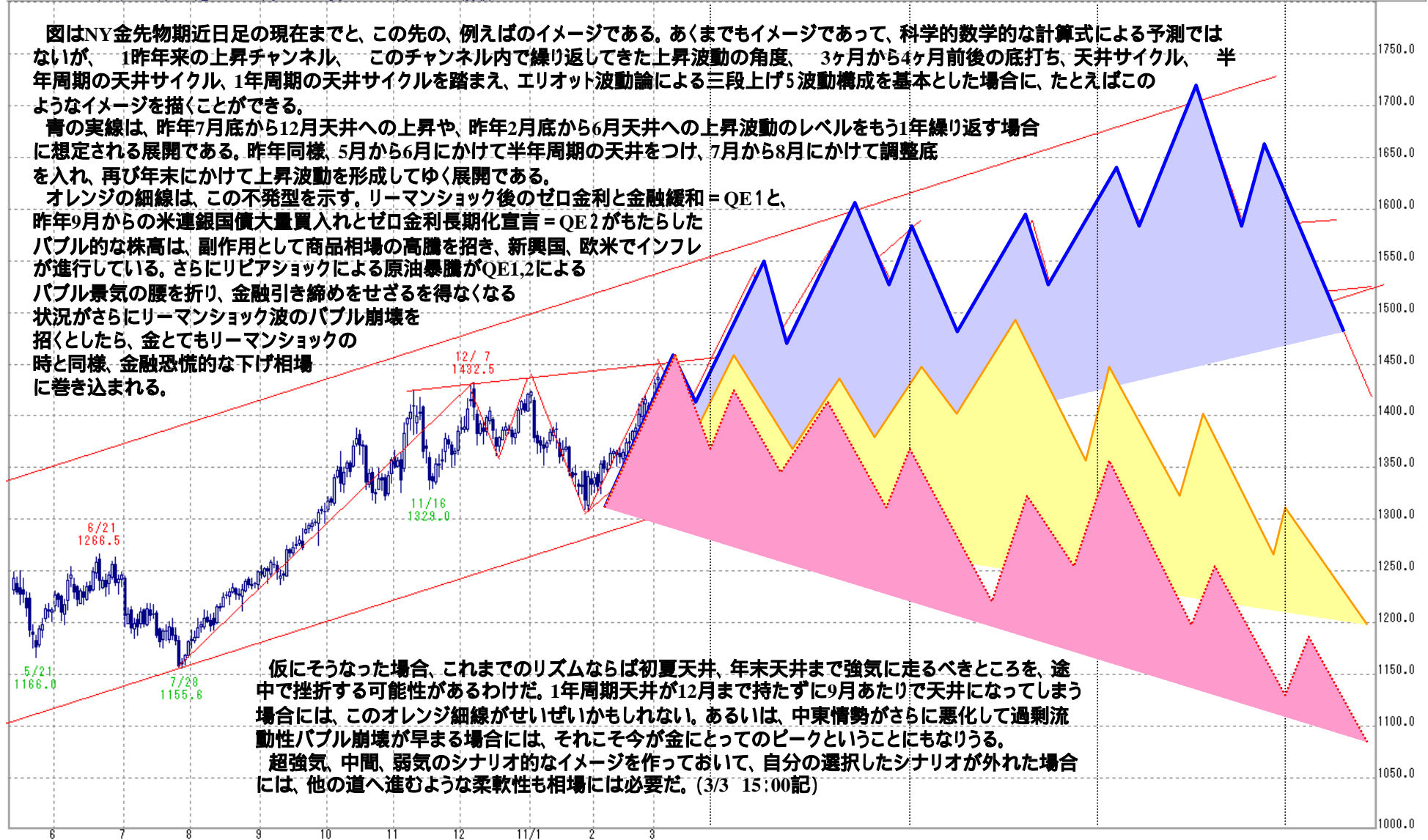
## 2011年の金相場展開イメージ 3種

NY金 日足 期近 期間10/05/12~11/03/02(204)高1441.0(11/03/02)安1155.6(10/07/28)  
11/03/02 11/04 始1434.9 高1441.0 安1428.2 終1437.7 前取515784

図はNY金先物期近日足の現在までと、この先の、例えばのイメージである。あくまでもイメージであって、科学的数学的な計算式による予測ではないが、1昨年来の上昇チャンネル、このチャンネル内で繰り返してきた上昇波動の角度、3ヶ月から4ヶ月前後の底打ち、天井サイクル、半年周期の天井サイクル、1年周期の天井サイクルを踏まえ、エリオット波動論による三段上げ5波動構成を基本とした場合に、たとえばこのようなイメージを描くことができる。

青の実線は、昨年7月底から12月天井への上昇や、昨年2月底から6月天井への上昇波動のレベルをもう1年繰り返す場合に想定される展開である。昨年同様、5月から6月にかけて半年周期の天井をつけ、7月から8月にかけて調整底を入れ、再び年末にかけて上昇波動を形成してゆく展開である。

オレンジの細線は、この不発型を示す。リーマンショック後のゼロ金利と金融緩和 = QE1と、昨年9月からの米連銀国債大量買入れとゼロ金利長期化宣言 = QE2 がもたらしたバブル的な株高は、副作用として商品相場の高騰を招き、新興国、欧米でインフレが進行している。さらにリビアショックによる原油暴騰がQE1,2によるバブル景気の腰を折り、金融引き締めをせざるを得なくなる状況がさらにリーマンショック波のバブル崩壊を招くとしたら、金とてもリーマンショックの時と同様、金融恐慌的な下げ相場に巻き込まれる。



仮にそうなった場合、これまでのリズムならば初夏天井、年末天井まで強気に走るべきところを、途中で挫折する可能性があるわけだ。1年周期天井が12月まで持たずに9月あたりで天井になってしまう場合には、このオレンジ細線がせいぜいかもしれない。あるいは、中東情勢がさらに悪化して過剰流動性バブル崩壊が早まる場合には、それこそ今が金にとってのピークということにもなりうる。

超強気、中間、弱気のシナリオ的なイメージを作っておいて、自分の選択したシナリオが外れた場合には、他の道へ進むような柔軟性も相場には必要だ。(3/3 15:00記)

# ゴールド 日足分析 待ち構えるのは前年同期型、昨年9月型？

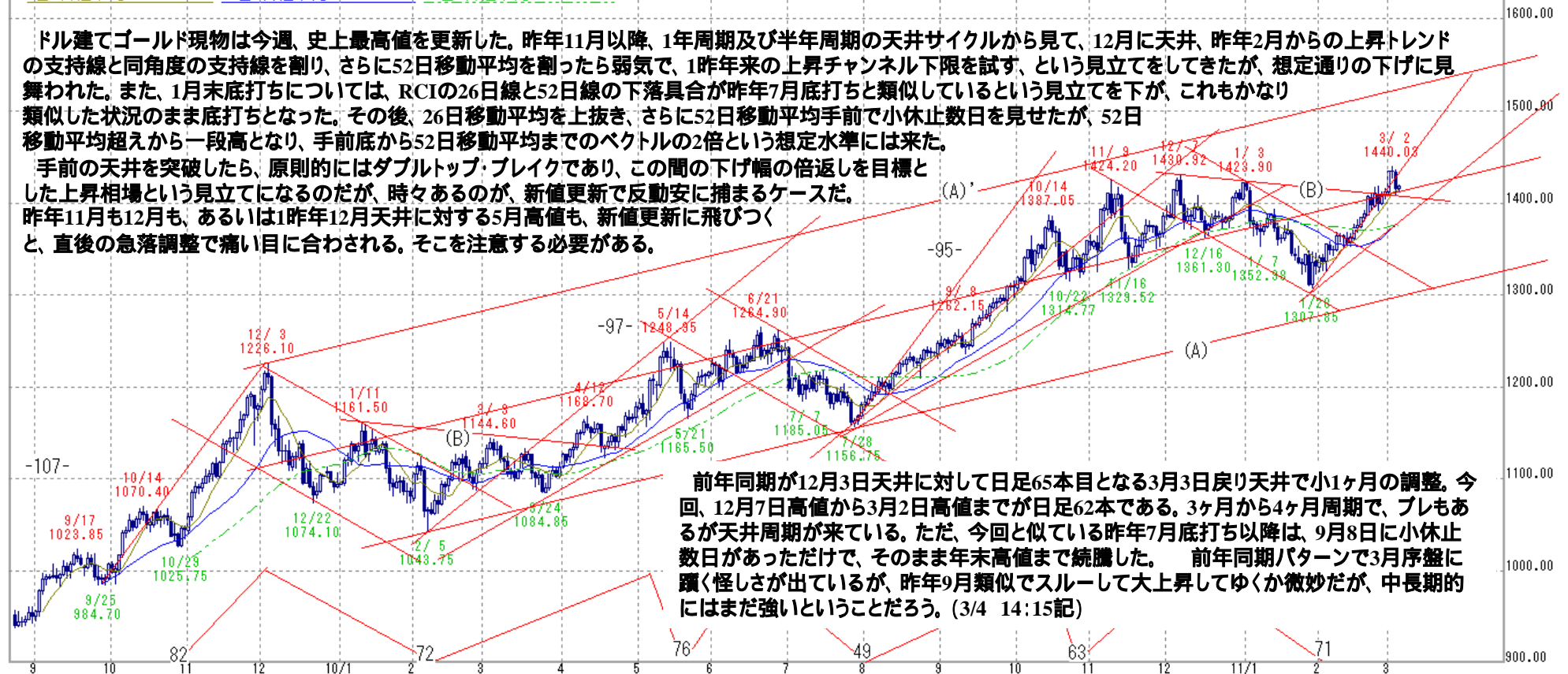
Gold(SP)(BID) 日足 期間09/08/24~11/03/04(400)高1440.03(11/03/02)安938.85(09/08/24)

11/03/04 始1415.58 高1419.58 安1413.28 終1418.72

9日 終値単純 MA=1414.76 26日 終値単純 MA=1379.58 52日 終値単純 MA=1376.30

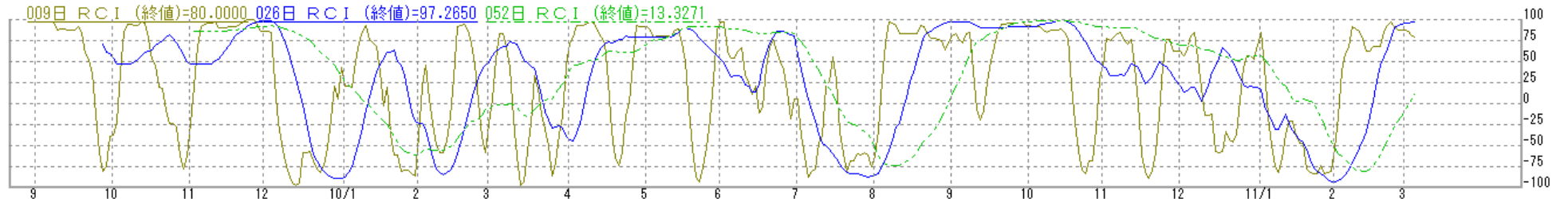
ドル建てゴールド現物は今週、史上最高値を更新した。昨年11月以降、1年周期及び半年周期の天井サイクルから見て、12月に天井、昨年2月からの上昇トレンドの支持線と同角度の支持線を割り、さらに52日移動平均を割ったら弱気で、1昨年来の上昇チャンネル下限を試す、という見立てをしてきたが、想定通りの下げに見舞われた。また、1月未だ打ちについては、RCIの26日線と52日線の下落具合が昨年7月打ちと類似しているという見立てを下が、これもかなり類似した状況のまま底打ちとなった。その後、26日移動平均を上抜き、さらに52日移動平均手前で小休止数日を見せたが、52日移動平均超えから一段高となり、手前底から52日移動平均までのベクトルの2倍という想定水準には来た。

手前の天井を突破したら、原則的にはダブルトップ・ブレイクであり、この間の下げ幅の倍返しを目標とした上昇相場という見立てになるのだが、時々あるのが、新値更新で反動安に捕まるケースだ。昨年11月も12月も、あるいは1昨年12月天井に対する5月高値も、新値更新に飛びつく、直後の急落調整で痛い目に合わされる。そこを注意する必要がある。



前年同期が12月3日天井に対して日足65本目となる3月3日戻り天井で小1ヶ月の調整。今回、12月7日高値から3月2日高値までが日足62本である。3ヶ月から4ヶ月周期で、プレもあるが天井周期が来ている。ただ、今回と似ている昨年7月打ち以降は、9月8日に小休止数日があっただけで、そのまま年末高値まで続騰した。前年同期パターンで3月序盤に躓く怪しさが出ているが、昨年9月類似でスルーして大上昇してゆくか微妙だが、中長期的にはまだ強いということだろう。(3/4 14:15記)

009日 RCI (終値)=80.0000 026日 RCI (終値)=97.2650 052日 RCI (終値)=13.3271



# 東京金 日足分析 ダブルトップ抵抗線抜けば へ、失敗なら、

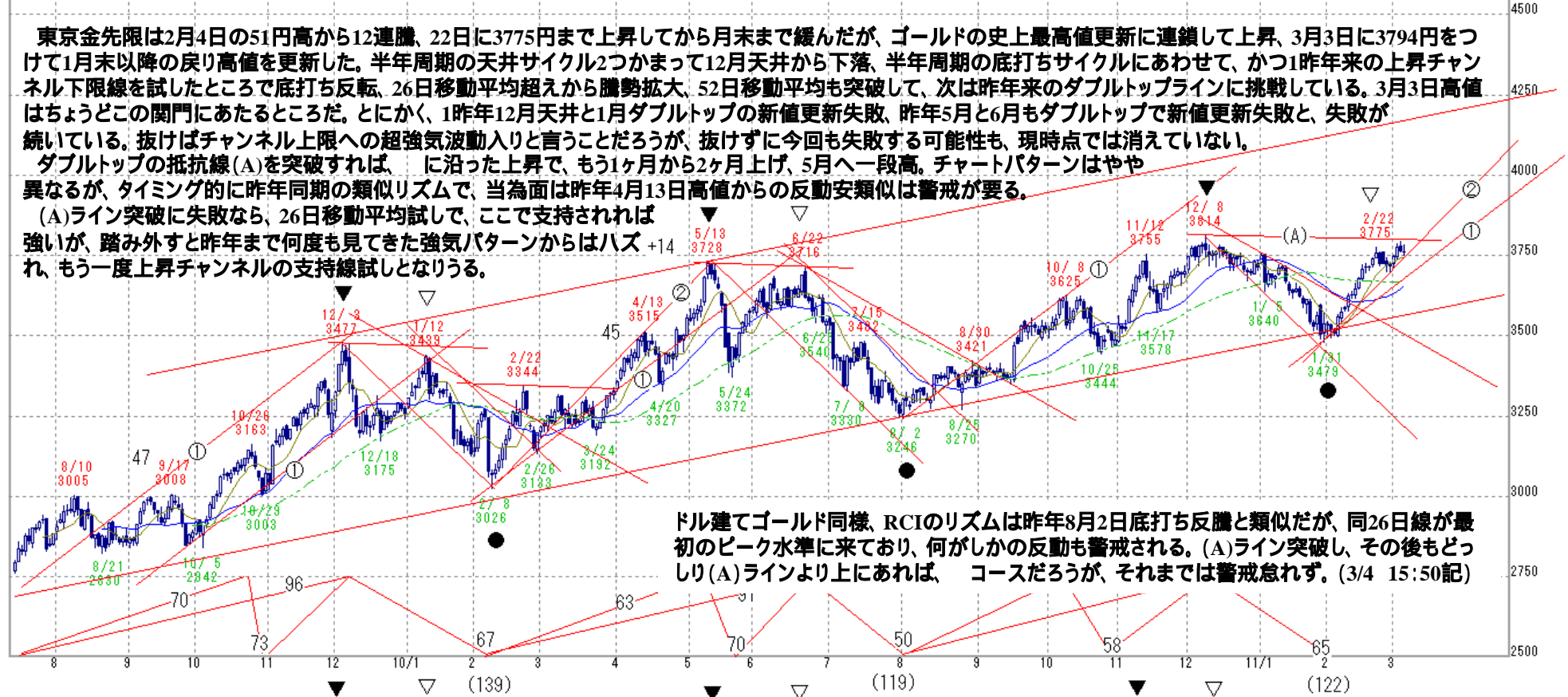
東京金 日足 先限 期間09/07/15~11/03/04(400)高3814(10/12/08)安2761(09/07/15)

11/03/04 12/02 始3763 高3784 安3751 終3761 出84110 前取125202

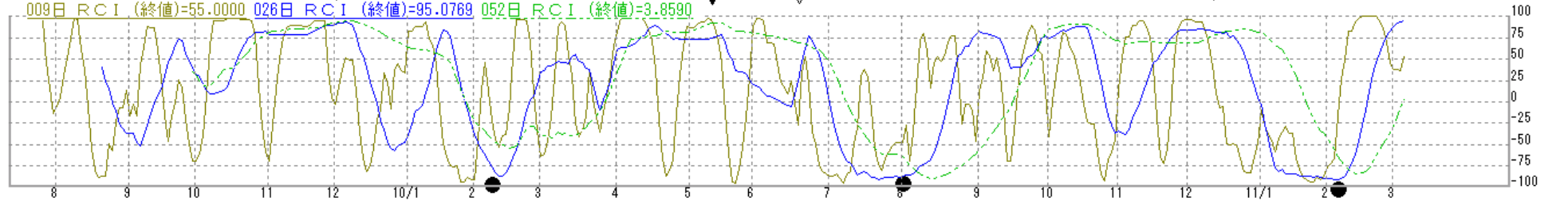
9日 終値単純 MA=3745 26日 終値単純 MA=3656 52日 終値単純 MA=3669

東京金先限は2月4日の51円高から12連騰、22日に3775円まで上昇してから月末まで緩んだが、ゴールドの史上最高値更新に連鎖して上昇、3月3日に3794円をつけて1月末以降の戻り高値を更新した。半年周期の天井サイクル2つかまって12月天井から下落、半年周期の底打ちサイクルにあわせて、かつ1昨年来の上昇チャンネル下限線を試したところで底打ち反転、26日移動平均超えから騰勢拡大、52日移動平均も突破して、次は昨年来のダブルトップラインに挑戦している。3月3日高値はちょうどこの関門にあたるころだ。とにかく、1昨年12月天井と1月ダブルトップの新値更新失敗、昨年5月と6月もダブルトップで新値更新失敗と、失敗が続いている。抜けばチャンネル上限への超強気波動入りと言うことだろうが、抜けずに今回も失敗する可能性も、現時点では消えていない。ダブルトップの抵抗線(A)を突破すれば、 に沿った上昇で、もう1ヶ月から2ヶ月上げ、5月へ一段高。チャートパターンはやや異なるが、タイミング的に昨年同期の類似リズムで、当為面は昨年4月13日高値からの反動安類似は警戒が要る。

(A)ライン突破に失敗なら、26日移動平均試して、ここで支持されれば強いが、踏み外すと昨年まで何度も見てきた強気パターンからはハズ +14 ね、もう一度上昇チャンネルの支持線試しとなりうる。



ドル建てゴールド同様、RCIのリズムは昨年8月2日底打ち反騰と類似だが、同26日線が最初のピーク水準に来ており、何がしかの反動も警戒される。(A)ライン突破し、その後もどっしり(A)ラインより上になれば、 コースだろうが、それまでは警戒怠れず。(3/4 15:50記)



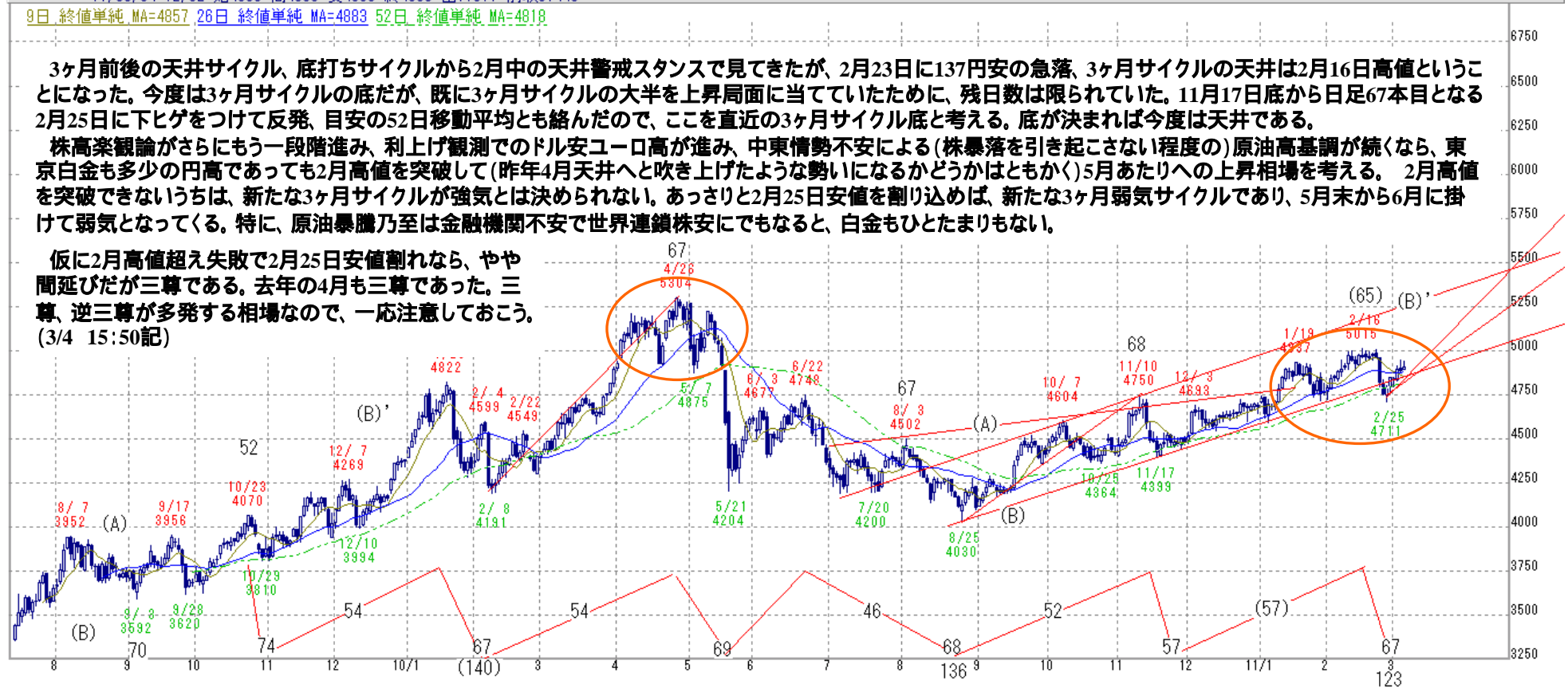
# 東京白金 日足分析 2月高値抜けない内は底抜け、三尊の懸念あり

東京白金 日足 先限 期間09/07/15~11/03/04(400)高5304(10/04/26)安3360(09/07/15)  
 11/03/04 12/02 始4896 高4938 安4896 終4908 出17017 前取61446  
 9日 終値単純\_MA=4857 26日 終値単純\_MA=4883 52日 終値単純\_MA=4818

3ヶ月前後の天井サイクル、底打ちサイクルから2月中の天井警戒スタンスで見えてきたが、2月23日に137円安の急落、3ヶ月サイクルの天井は2月16日高値ということになった。今度は3ヶ月サイクルの底だが、既に3ヶ月サイクルの大半を上昇局面に当てていたために、残日数は限られていた。11月17日底から日足67本目となる2月25日に下ヒゲをつけて反発、目安の52日移動平均とも絡んだので、ここを直近の3ヶ月サイクル底と考える。底が決まれば今度は天井である。

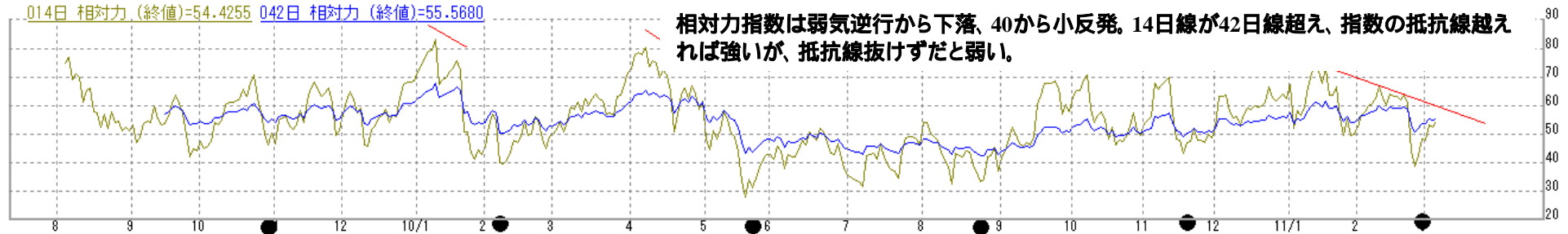
株高楽観論がさらにもう一段階進み、利上げ観測でのドル安ユーロ高が進み、中東情勢不安による(株暴落を引き起こさない程度の)原油高基調が続くなら、東京白金も多少の円高であっても2月高値を突破して(昨年4月天井へと吹き上げたような勢いになるかどうか)5月あたりへの上昇相場を考える。2月高値を突破できないうちは、新たな3ヶ月サイクルが強気とは決められない。あっさり2月25日安値を割り込めば、新たな3ヶ月弱気サイクルであり、5月末から6月に掛けて弱気となってくる。特に、原油暴騰乃至は金融機関不安で世界連鎖株安にでもなると、白金もひとたまりもない。

仮に2月高値超え失敗で2月25日安値割れなら、やや間延びだが三尊である。去年の4月も三尊であった。三尊、逆三尊が多発する相場なので、一応注意しておこう。  
 (3/4 15:50記)



014日 相対力 (終値)=54.4255 042日 相対力 (終値)=55.5680

相対力指数は弱気逆行から下落、40から小反発。14日線が42日線超え、指数の抵抗線越えれば強いが、抵抗線抜けずだと弱い。



# NY原油 日足分析 単発ではなく2段、3段ロケットの可能性

NY原油 日足 期近 期間09/08/06~11/03/03(400)高103.41(11/02/24)安64.24(10/05/20)

11/03/03 11/04 始102.39 高102.94 安100.15 終101.91 前取1574584

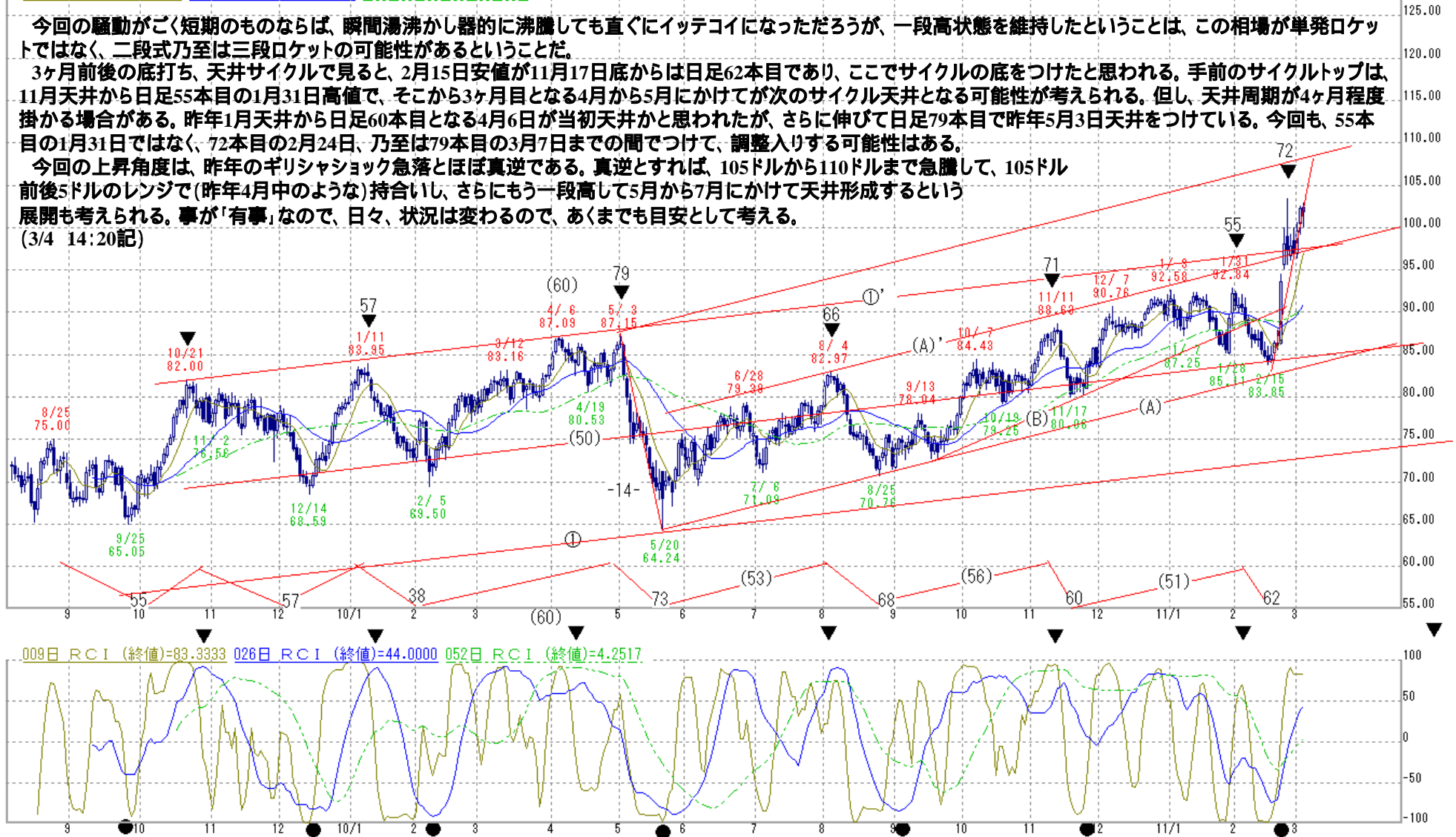
9日 終値単純 MA=97.09 26日 終値単純 MA=90.90 52日 終値単純 MA=90.46

今回の騒動がごく短期のものならば、瞬間湯沸かし器的に沸騰しても直ぐにイッテコイになっただろうが、一段高状態を維持したということは、この相場が単発ロケットではなく、二段式乃至は三段ロケットの可能性があるとことだ。

3ヶ月前後の底打ち、天井サイクルで見ると、2月15日安値が11月17日底からは日足62本目であり、ここでサイクルの底をつけたと思われる。手前のサイクルトップは、11月天井から日足55本目の1月31日高値で、そこから3ヶ月目となる4月から5月にかけてが次のサイクル天井となる可能性が考えられる。但し、天井周期が4ヶ月程度掛かる場合がある。昨年1月天井から日足60本目となる4月6日が当初天井かと思われたが、さらに伸びて日足79本目で昨年5月3日天井をつけている。今回も、55本目の1月31日ではなく、72本目の2月24日、乃至は79本目の3月7日までの間でつけて、調整入りする可能性はある。

今回の上昇角度は、過去のギリシャショック急落とほぼ真逆である。真逆とすれば、105ドルから110ドルまで急騰して、105ドル前後5ドルのレンジで(昨年4月中のような)持合いし、さらにもう一段高して5月から7月にかけて天井形成するという展開も考えられる。事が「有事」なので、日々、状況は変わるので、あくまでも目安として考える。

(3/4 14:20記)



# 東京ガソリン 日足分析 三段抜きの陰転まで

東京ガソリン 日足 先限 期間09/07/15~11/03/04(400)高70400(11/03/03)安42000(09/07/15)

11/03/04 11/09 始68660 高69900 安68580 終69780 出18430 前取32950

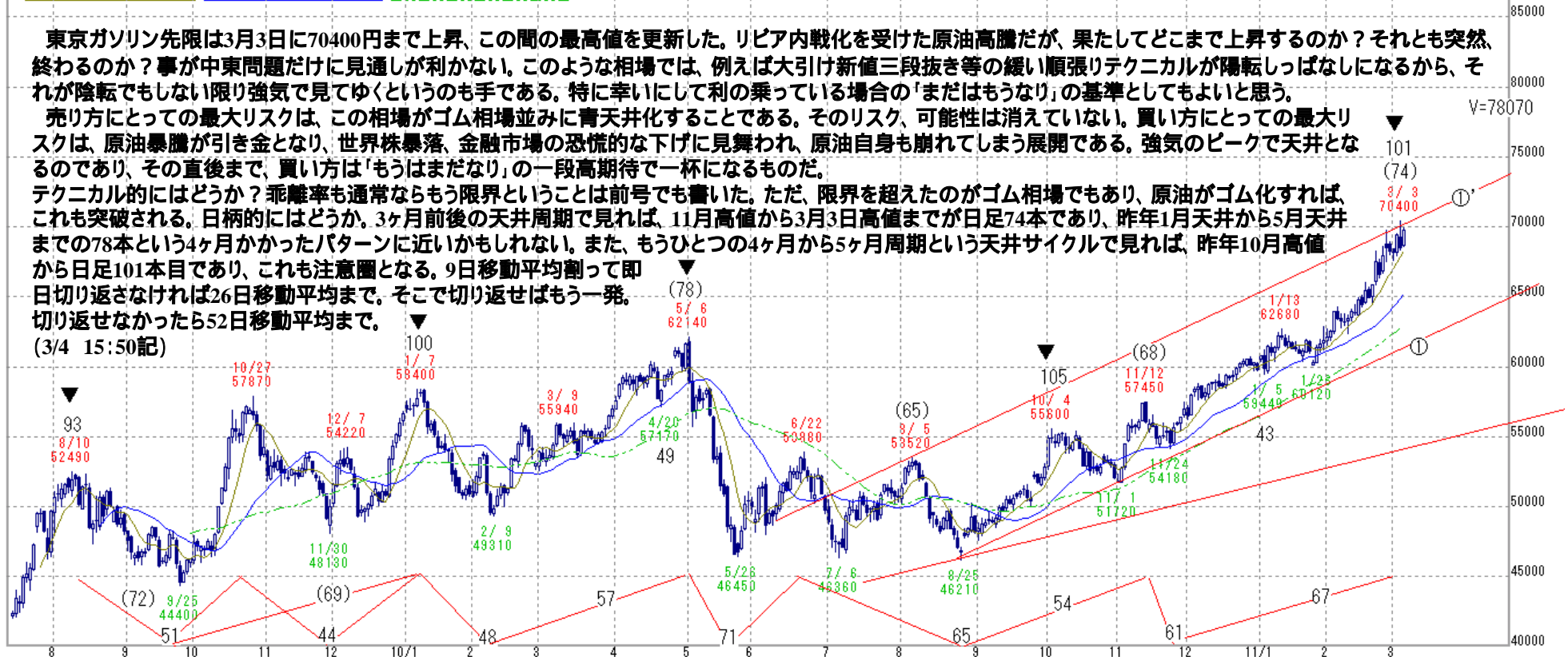
9日 終値単純 MA=68311 26日 終値単純 MA=65195 52日 終値単純 MA=62975

東京ガソリン先限は3月3日に70400円まで上昇、この間の最高値を更新した。リビア内戦化を受けた原油高騰だが、果たしてどこまで上昇するのか？それとも突然、終わるのか？事が中東問題だけに見通しが利かない。このような相場では、例えば大引け新値三段抜き等の緩い順張りテクニカルが陽転しっぱなしになるから、それが陰転でもしない限り強気で見てゆくというも手である。特に幸いにして利の乗っている場合の「まだはもうなり」の基準としてもよいと思う。

売り方にとっての最大リスクは、この相場がゴム相場並みに青天井化することである。そのリスク、可能性は消えていない。買い方にとっての最大リスクは、原油暴騰が引き金となり、世界株暴落、金融市場の恐慌的な下げに見舞われ、原油自身も崩れてしまう展開である。強気のピークで天井となるのであり、その直後まで、買い方は「もうはまだなり」の一段高期待で一杯になるものだ。

テクニカル的にはどうか？乖離率も通常ならもう限界ということは前号でも書いた。ただ、限界を超えたのがゴム相場でもあり、原油がゴム化すれば、これも突破される。日柄的にはどうか、3ヶ月前後の天井周期で見れば、11月高値から3月3日高値までが日足74本であり、昨年1月天井から5月天井までの78本という4ヶ月かかったパターンに近いかもしれない。また、もうひとつの4ヶ月から5ヶ月周期という天井サイクルで見れば、昨年10月高値から日足101本目であり、これも注意圏となる。9日移動平均割って即日切り返さなければ26日移動平均まで。そこで切り返せばもう一発。切り返せなかったら52日移動平均まで。

(3/4 15:50記)



三段抜き新値足 (終値)=69780 陽転中 11 手目 転換値 : 67920



# 東京ゴム 日足分析 移動平均分析の原則通り

東京ゴム 日足 先限 期間09/07/15~11/03/04(400)高535.7(11/02/18)安156.1(09/07/15)

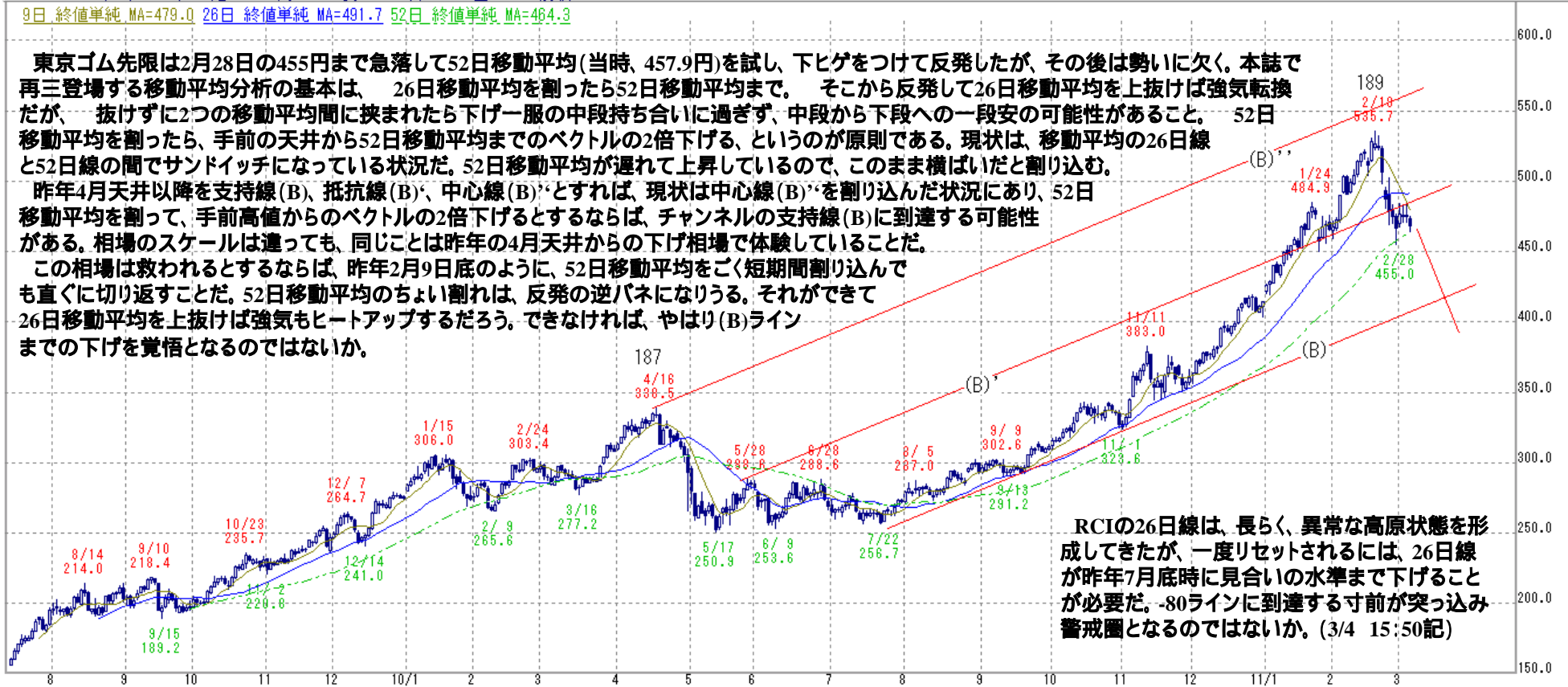
11/03/04 11/08 始473.5 高474.9 安463.9 終468.4 出24102 前取40779

9日 終値単純 MA=479.0 26日 終値単純 MA=491.7 52日 終値単純 MA=464.3

東京ゴム先限は2月28日の455円まで急落して52日移動平均(当時、457.9円)を試し、下ヒゲをつけて反発したが、その後は勢いに欠く。本誌で再三登場する移動平均分析の基本は、26日移動平均を割ったら52日移動平均まで。そこから反発して26日移動平均を上抜けば強気転換だが、抜けずに2つの移動平均間に挟まれたら下げ一服の中段持ち合いに過ぎず、中段から下段への一段安の可能性が有ること。52日移動平均を割ったら、手前の天井から52日移動平均までのベクトルの2倍下げ、というのが原則である。現状は、移動平均の26日線と52日線の間でサンドイッチになっている状況だ。52日移動平均が遅れて上昇しているため、このまま横ばいだと割り込む。

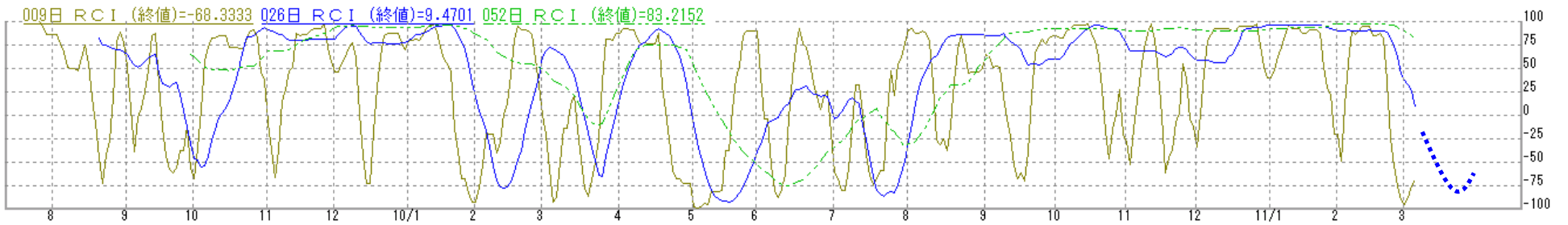
昨年4月天井以降を支持線(B)、抵抗線(B)'、中心線(B)''とすれば、現状は中心線(B)''を割り込んだ状況にあり、52日移動平均を割って、手前高値からのベクトルの2倍下げとするならば、チャンネルの支持線(B)に到達する可能性がある。相場のスケールは違っても、同じことは昨年4月天井からの下げ相場で体験していることだ。

この相場は救われるとするならば、昨年2月9日底のように、52日移動平均をごく短期間割り込んで直ぐに切り返すことだ。52日移動平均のちょい割れは、反発の逆パネになりうる。それができて26日移動平均を上抜けば強気もヒートアップするだろう。できなければ、やはり(B)ラインまでの下げを覚悟となるのではないか。

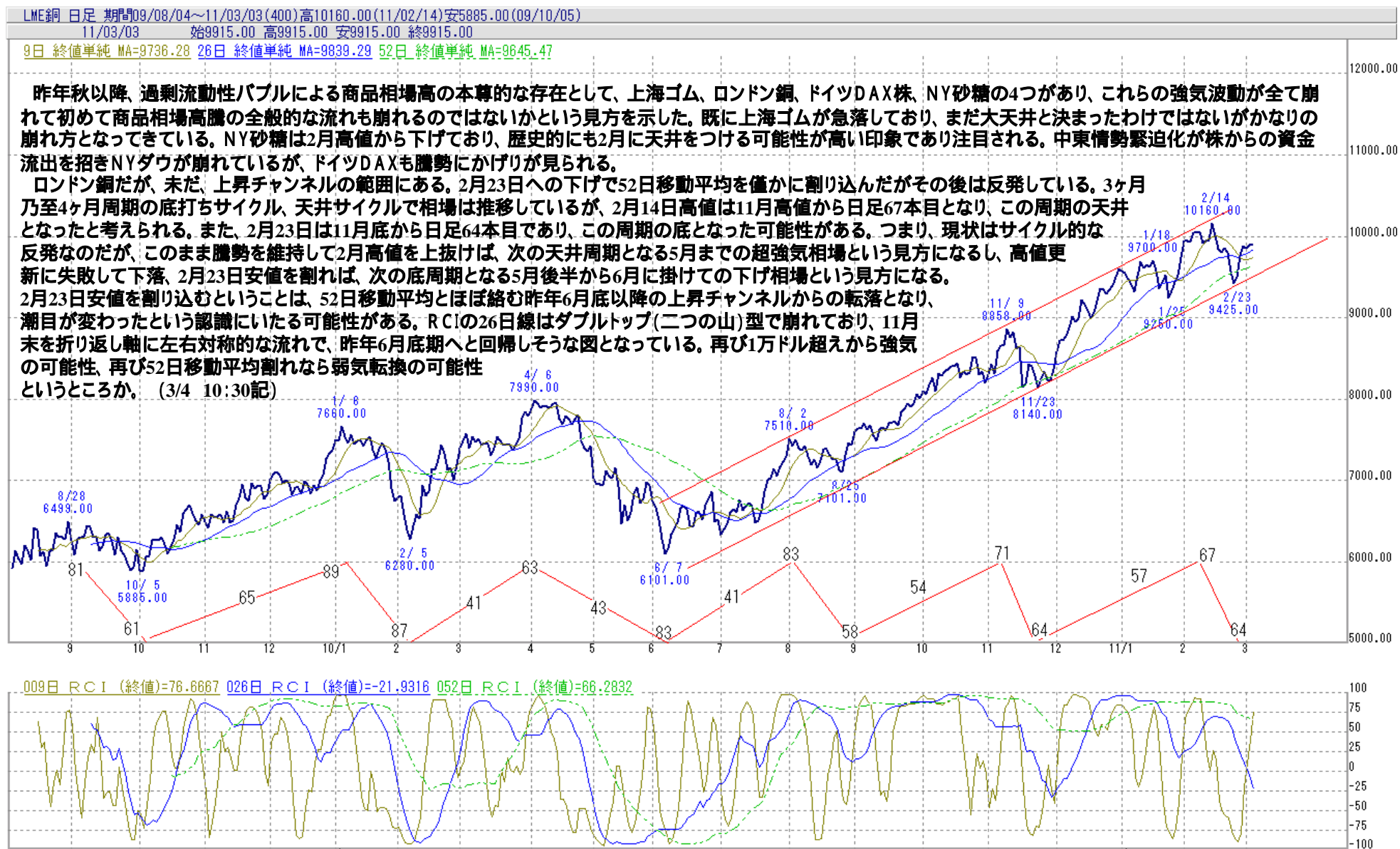


RCIの26日線は、長らく、異常な高原状態を形成してきたが、一度リセットされるには、26日線が昨年7月底時に見合いの水準まで下げることが必要だ。-80ラインに到達する寸前が突っ込み警戒圏となるのではないか。(3/4 15:50記)

009日 RCI (終値)=-88.3333 026日 RCI (終値)=9.4701 052日 RCI (終値)=83.2152



## LME銅 日足分析 RCIが左右対称的崩れかたで注目



# シカゴ大豆 日足分析 11月急落並み消化、次は11~2月上昇並み

シカゴ大豆 日足 期近 期間09/10/15~11/03/03(348)高1455.75(11/02/09)安900.00(10/02/04)

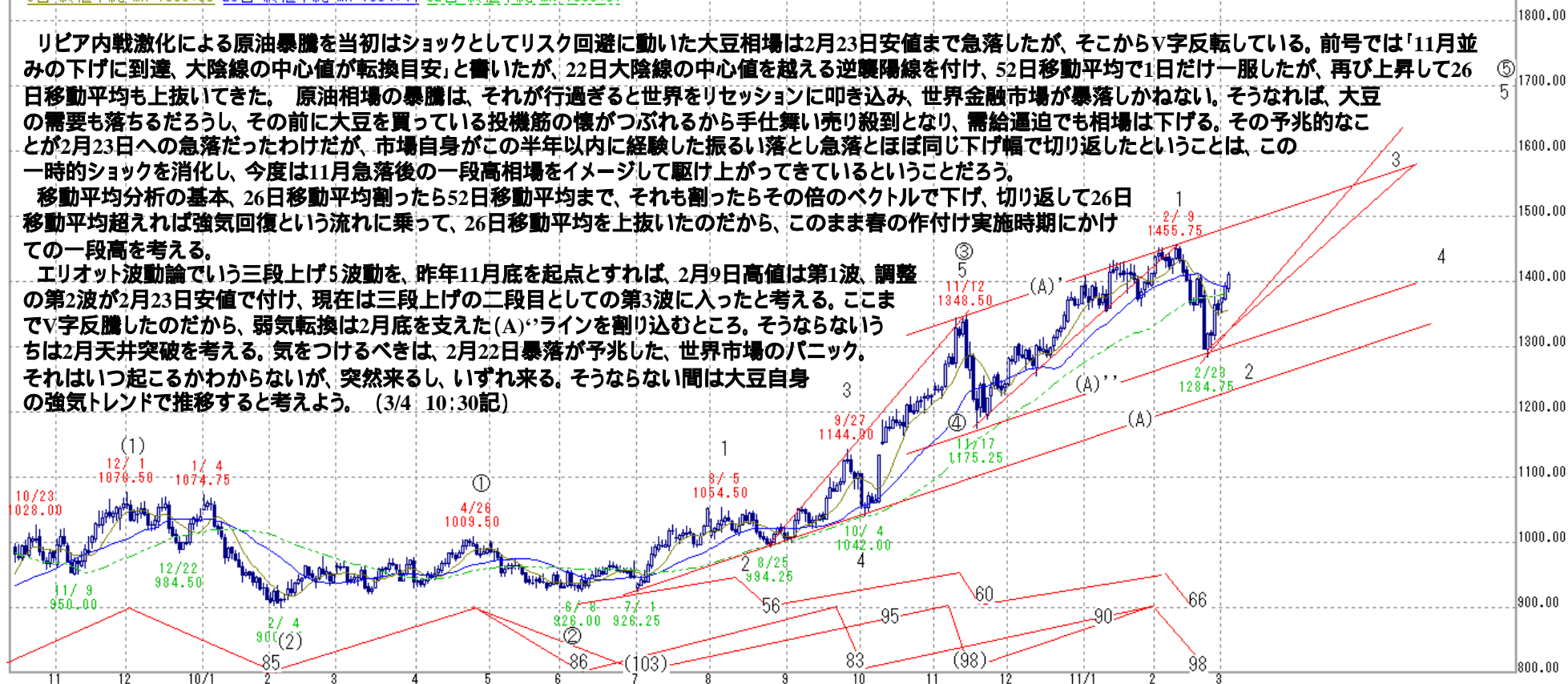
11/03/03 11/05 始1390.50 高1414.50 安1384.50 終1412.00 前取612286

9日 終値単純 MA=1356.50 26日 終値単純 MA=1394.44 52日 終値単純 MA=1385.67

リビア内戦激化による原油暴騰を当初はショックとしてリスク回避に動いた大豆相場は2月23日安値まで急落したが、そこからV字反転している。前号では「11月並みの下げに到達、大陰線の中心値が転換目安」と書いたが、22日大陰線の中心値を越える逆襲陽線を付け、52日移動平均で1日だけ一服したが、再び上昇して26日移動平均も上抜いてきた。原油相場の暴騰は、それが行過ぎると世界をリセッションに叩き込み、世界金融市場が暴落しかねない。そうなれば、大豆の需要も落ちるだろうし、その前に大豆を買っている投機筋の懐がつぶれるから手仕舞い売り殺到となり、需給逼迫でも相場は下げる。その予兆的なことが2月23日への急落だったわけだが、市場自身がこの半年以内に経験した振るい落とし急落とほぼ同じ下げ幅で切り返したということは、この一時的ショックを消化し、今度は11月急落後の一段高相場をイメージして駆け上がってきているということだろう。

移動平均分析の基本、26日移動平均割ったら52日移動平均まで、それも割ったらその倍のベクトルで下げ、切り返して26日移動平均超えれば強気回復という流れに乗って、26日移動平均を上抜いたのだから、このまま春の作付け実施時期にかけての一段高を考える。

エリオット波動論でいう三段上げ5波動を、昨年11月底を起点とすれば、2月9日高値は第1波、調整の第2波が2月23日安値で付け、現在は三段上げの二段目としての第3波に入ったと考える。こまめでV字反騰したのだから、弱気転換は2月底を支えた(A)'ラインを割り込むところ。そうならないうちは2月天井突破を考える。気をつけるべきは、2月22日暴落が予兆した、世界市場のパニック。それはいつ起こるかわからないが、突然来るし、いずれ来る。そうならない間は大豆自身の強気トレンドで推移すると考えよう。(3/4 10:30記)



014日 相対力 (終値)=55.8589 042日 相対力 (終値)=55.9861



# シカゴコーン 日足分析 昨年6 11月並み上昇波を継続中

シカゴコーン 日足 期近 期間09/08/03~11/03/03(400)高740.75(11/03/02)安302.00(09/09/08)

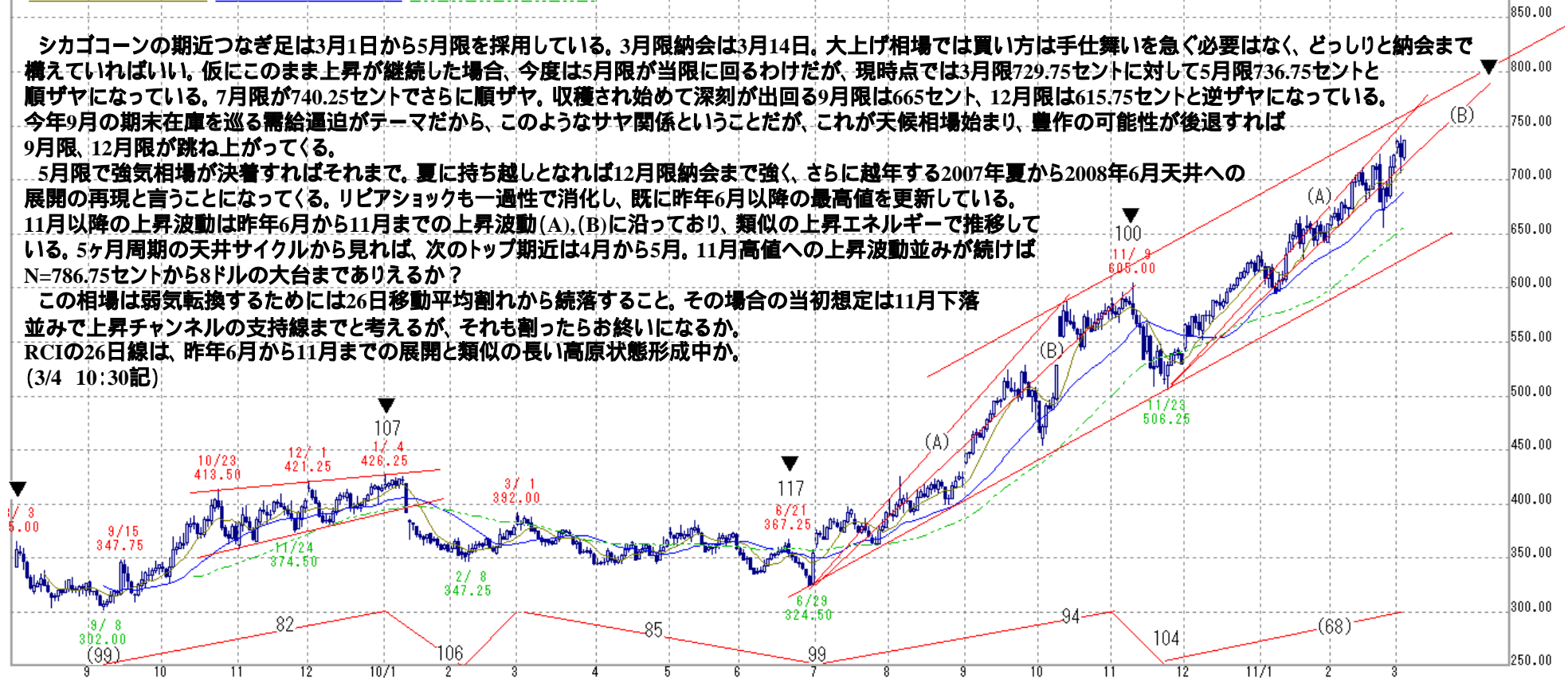
11/03/03 11/05 始721.00 高737.00 安718.00 終736.75 前取1646492

9日 終値単純 MA=710.56 28日 終値単純 MA=689.40 52日 終値単純 MA=656.65

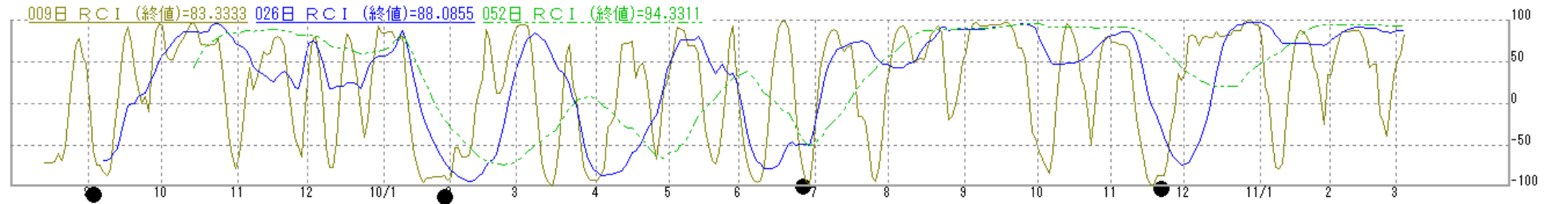
シカゴコーンの期近つなぎ足は3月1日から5月限を採用している。3月限納会は3月14日。大上げ相場では買い方は手仕舞いを急ぐ必要はなく、どっしりと納会まで構えていればいい。仮にこのまま上昇が継続した場合、今度は5月限が当限に回るわけだが、現時点では3月限729.75セントに対して5月限736.75セントと順ザヤになっている。7月限が740.25セントでさらに順ザヤ。収穫され始めて深刻が出回る9月限は665セント、12月限は615.75セントと逆ザヤになっている。今年9月の期末在庫を巡る需給逼迫がテーマだから、このようなサヤ関係ということだが、これが天候相場始まり、豊作の可能性が後退すれば9月限、12月限が跳ね上がってくる。

5月限で強気相場が決着すればそれまで。夏に持ち越しとなれば12月限納会まで強く、さらに越年する2007年夏から2008年6月天井への展開の再現と言うことになってくる。リビアショックも一過性で消化し、既に昨年6月以降の最高値を更新している。11月以降の上昇波動は昨年6月から11月までの上昇波動(A),(B)に沿っており、類似の上昇エネルギーで推移している。5ヶ月周期の天井サイクルから見れば、次のトップ期近は4月から5月。11月高値への上昇波動並みが続けばN=786.75セントから8ドルの大台までありえるか？

この相場は弱気転換するためには26日移動平均割れから続落すること。その場合の当初想定は11月下落並みで上昇チャンネルの支持線までと考えるが、それも割ったらお終いになるか。RCIの26日線は、昨年6月から11月までの展開と類似の長い高原状態形成中か。(3/4 10:30記)



009日 RCI (終値)=83.3333 026日 RCI (終値)=88.0855 052日 RCI (終値)=94.3311



# 東京粗糖 日足分析 中段の緩い三角持合を維持

東京粗糖 日足 先限 期間09/09/03~11/03/04(365)高53910(10/11/11)安34300(10/05/18)

11/03/04 12/03 始48940 高49860 安47900 終49750 出1042 前取18881

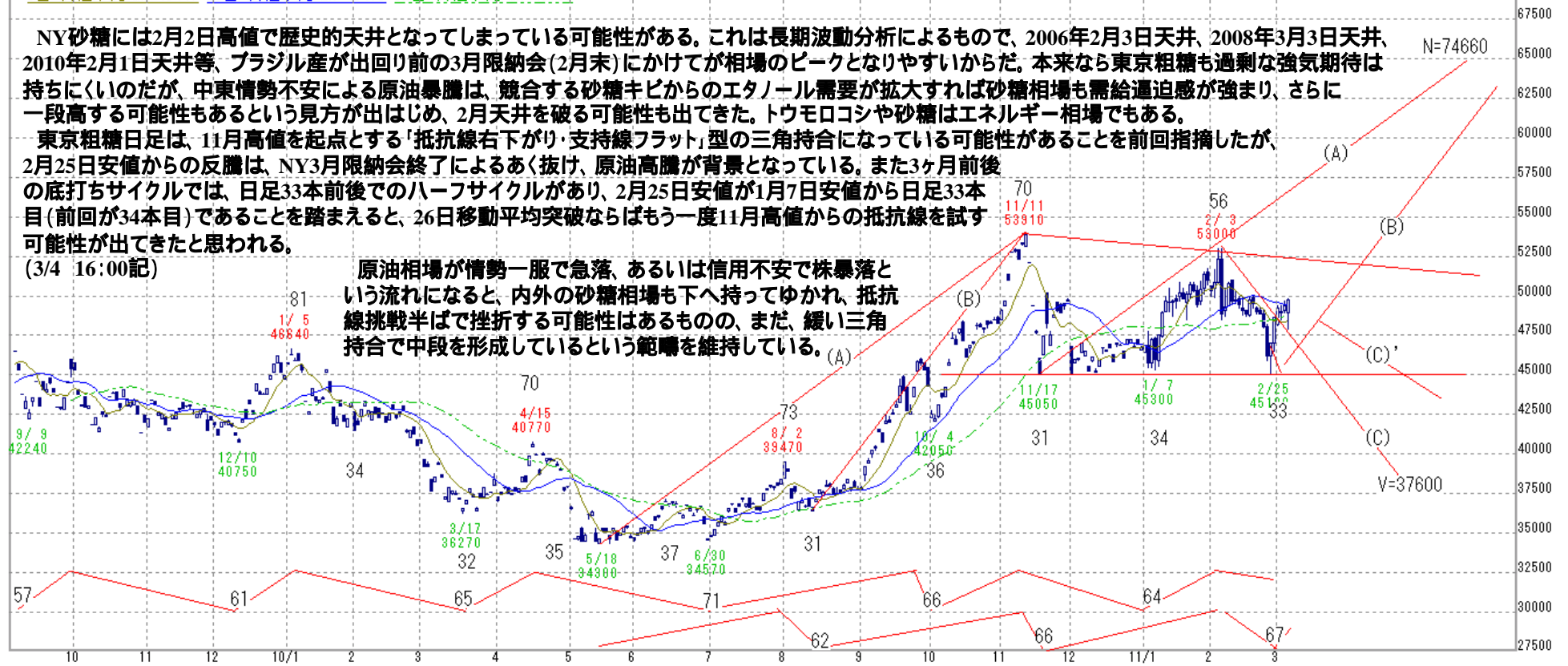
9日 終値単純 MA=48447 26日 終値単純 MA=49476 52日 終値単純 MA=48756

NY砂糖には2月2日高値で歴史的天井となってしまう可能性がある。これは長期波動分析によるもので、2006年2月3日天井、2008年3月3日天井、2010年2月1日天井等、ブラジル産が出回り前の3月限納会(2月末)にかけてが相場のピークとなりやすいからだ。本来なら東京粗糖も過剰な強気期待は持ちにくいのだが、中東情勢不安による原油暴騰は、競合する砂糖キビからのエタノール需要が拡大すれば砂糖相場も需給逼迫感が強まり、さらに一段高する可能性もあるという見方が出はじめ、2月天井を破る可能性も出てきた。トウモロコシや砂糖はエネルギー相場でもある。

東京粗糖日足は、11月高値を起点とする「抵抗線右下がり・支持線フラット」型の三角持合になっている可能性があることを前回指摘したが、2月25日安値からの反騰は、NY3月限納会終了によるあく抜け、原油高騰が背景となっている。また3ヶ月前後の底打ちサイクルでは、日足33本前後でのハーフサイクルがあり、2月25日安値が1月7日安値から日足33本目(前回は34本目)であることを踏まえると、26日移動平均突破ならばもう一度11月高値からの抵抗線を試す可能性が出てきたと思われる。

(3/4 16:00記)

原油相場が情勢一服で急落、あるいは信用不安で株暴落という流れになると、内外の砂糖相場も下へ持ってゆかれ、抵抗線挑戦半ばで挫折する可能性はあるものの、まだ、緩い三角持合で中段を形成しているという範疇を維持している。



009日 RCI (終値)=76.8667 026日 RCI (終値)=-63.3504 052日 RCI (終値)=98.8906

